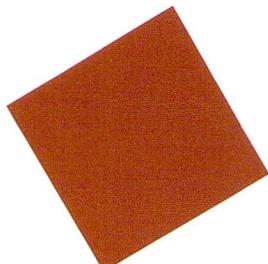


# 京都滋賀 体育学 研究

## 資料

- 三瀬 貴生他：中学及び高校水泳部活動における傷害実態と  
フィジカルケアサポート ..... 1
- 京都滋賀体育学会だより No. 37 ..... 7



京都滋賀体育学会

第 30 卷  
平成26年7月

## 「京都滋賀体育学研究」編集・投稿規定

平成 24 年 4 月 1 日一部改訂  
平成 26 年 4 月 1 日一部改訂

1. 「京都滋賀体育学研究」(英文名 Kyoto and Shiga Journal of Physical Education, Health and Sport Sciences 以下本誌) は、京都滋賀体育学会の機関誌であり年一回以上発行する。
2. 本誌は本学会会員の体育・スポーツに関する論文の発表にあてる。編集委員会が認めた場合には会員以外に寄稿を依頼することもできる。
3. 1 編の論文の長さは本誌 8 ページ以内とする。ただし短報については 3 ページ以内とする。
4. 原稿は、所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、原著論文、資料、実践研究、短報の別を指定して編集委員会事務局あてに提出する。原稿は Word または PDF ファイルとする。電子ファイルをメール添付もしくは CD で提出する。
5. 投稿論文は、学術論文としてふさわしい内容と形式をそなえたものであり、人権擁護・動物愛護について配慮され、かつ未公刊のものでなければならない。
6. 投稿論文は編集委員会が審査し、その掲載の可否を決定する。
7. 原稿の印刷において規程のページ数を超過した場合、あるいは、図版・写真などとくに費用を要するものは、その実費を執筆者の負担とする。
8. 別刷は校正時に希望部数を申し出ること。実費により希望に応じる。
9. 本誌の編集事務についての連絡は、「京都滋賀体育学研究」編集委員会事務局あてとする。
10. 編集委員会は理事会において編成する。
11. 掲載された原稿の著作権は本会に帰する。

平成26年6月吉日

京都滋賀体育学会会員 各位

京都滋賀体育学会理事会

## 平成26年度京都滋賀体育学会研究集会の公募について

謹 啓

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

京都滋賀体育学会では、会員の皆様が開催する研究集会に対して補助を行います。下記の要領にて研究集会を公募いたしますので、多数ご応募いただきますようご案内申し上げます。

謹 白

記

目 的：京都滋賀体育学会の正会員が以下の目的で開催する研究集会を支援し、学会員及び学生や院生の教育・研究に寄与する。

1) 体育・スポーツに関する専門分野の研究促進

2) 他研究分野・他学会との連携

3) 学会員の研究室に所属する学生・院生・研究生の交流の場に対する教育支援

交 付 金 額：1つの研究集会に対して、学会共催として30,000円を上限として補助する。

応募資格・方法：申請時における正会員2名以上が世話人となり、所定の様式（別紙1）に目的、内容（研究発表会、講演会、実践研修会など）、実施日時及び場所、参加予定者を記入し、平成26年8月31日※までに下記宛に電子メールの添付書類にて提出すること。申請書類は、京都滋賀体育学会ホームページ(<http://www.kyoto-taiiku.com>)からダウンロードすること。

提 出 先：電子メールアドレス「shukai@kyoto-taiiku.com」宛

選 考 方 法：平成26年度京都滋賀体育学会理事会にて審査し、承認する。

報 告 の 義 務：世話人は、研究集会の講演または発表者、参加者、補助金の使用状況等を明記した様式（別紙2）を、平成27年2月末日までに京都滋賀体育学会理事会（上記メールアドレス宛）に提出すること。報告書類は、京都滋賀体育学会ホームページ(<http://www.kyoto-taiiku.com>)からダウンロードすること。

※「京都滋賀体育学会研究集会に関する規程」では、申請締切は7月末日とされていますが、平成26年度公募分につきましては、締切を1ヶ月延長することとしました。

以 上

平成26年6月吉日

京都滋賀体育学会会員 各位

京都滋賀体育学会理事会

## 第7回(平成27年度)京都滋賀体育学会研究基金学術研究の公募について

謹 啓

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

京都滋賀体育学会理事会では、第7回(平成27年度)京都滋賀体育学会研究基金学術研究について、下記の要領にて公募することと致しました。多数ご応募頂きますようご案内申し上げます。

謹 白

### 記

目 的：京都滋賀体育学会会員の研究活動を奨励援助し、学会の活性化と共に社会的貢献を目的とする。

交 付 金 額：1件あたり15万円を上限とし、2件程度に対して交付する。

応 募 資 格：申請時において、京都滋賀体育学会の会員であること。

学術研究テーマ：自由課題学術研究

体育・健康・スポーツに関する調査・研究の発展と充実が期待されるものであること。

応 募 方 法：申請用紙に研究テーマ、目的、内容などを簡潔に書き、平成27年1月31日までに下記宛に電子メールの添付書類にて提出すること。申請書類は、京都滋賀体育学会ホームページ(<http://www.kyoto-taiiku.com>)からダウンロードすること。

提 出 先：電子メールアドレス「josei@kyoto-taiiku.com」宛

選 考 方 法：平成26年度京都滋賀体育学会理事会にて選考委員会を設け、審査の後、理事会で承認する。

助成者の発表：平成27年3月7日(土)開催の京都滋賀体育学会第144回大会(於：立命館大学)で発表する。

助成金は必要書類が提出された後、平成27年6月頃までに交付する。

報 告 の 義 務：平成28年3月(予定)に行われる京都滋賀体育学会第145回大会(開催校未定)で報告し、平成28年6月30日までに京都滋賀体育学研究(本学会誌)に報告書として投稿すること。

留 意 点：応募は、研究者1名につき1件のみとする。

以 上

# 中学及び高校水泳部活動における 傷害実態とフィジカルケアサポート

三瀬貴生 \*， 宇野慎也 \*\*， 野村照夫 \*\*\*

The injury actual condition and physical care support in swimming team  
of a junior high school and a high school.

Takao MISE\*, Shinya UNO\*\*, Teruo NOMURA\*\*\*

## Abstract

Purpose: The purpose of this study was to investigate the injury actual condition in swimming team of a junior high school and a high school. Furthermore, the physical care support to injury is recorded and it is considered as 1data of injury prevention. Methods: It interviewed to what sued the bad condition of the body for the swimmer of a junior high school and a high school student. The contents of physical care support were divided and recorded on the exercise, stretching, icing, and the introduction to a medical institution, and manual therapy.

Results: The injury occurrence had most injury of the shoulder (51.3%) and, subsequently was the order of the low back (25.0%) and a knee (12.5%). Physical care support had the high ratio of exercise (38%) and stretching (33%).

Conclusion: In a junior generation, it needs to be cautious of the injury of the shoulder. The tendency which injury improves by exercise and stretching was seen. However, since objectivity is scarce, the validity is a future subject rather than is clear.

## I. 緒 言

水泳競技は、競泳、飛込、水球、シンクロ、オープンウォータースイミングの5競技の種目があり、それぞれ競技特性が異なるため、各競技種目で生じる外傷・障害の部位や特徴は異なる。競泳では over use による障害の発生が多く、腰部障害や肩の障害の頻度が

高いと報告されている（武藤1989、長谷川ら2001、Mountjoy Margo etc.2010）。片山らは、競泳日本代表選手を対象に過去と調査時における外傷・障害調査を行った結果、腰24.3%，肩20.1%，膝18.0%と腰部障害が最も頻度が高いと報告している（片山ら、2001）。半谷らは国立スポーツ科学センタークリニックを診療目的で受診した選手の外傷・障害の罹患部位を比較検

\* 環太平洋大学  
International Pacific University  
709-8211 岡山県岡山市東区矢津2050番地13  
2050-13, Yazu, Higashi-ku, Okayama-shi, Okayama 709-8211

\*\* 京都文教高等学校  
Kyoto Bunkyo Senior High School  
606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町5  
Enshoji-cho, Okazaki, Sakyo-ku, Kyoto 606-8344

\*\*\* 京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科  
Graduate School of Science and Technology, Kyoto Institute of Technology  
606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町  
Goshokaido-cho, Matsugasaki, Sakyo-ku, Kyoto 606-8585

討した結果、競泳選手では、腰部、肩甲帯、膝関節部の順で外傷・障害が多かったと報告している(半谷ら、2010)。いずれもトップアスリートを対象としていることから、競泳のトップ選手の外傷・障害の罹患部位としては腰・肩・膝の順に多いことが明らかである。しかし、トップ下の選手を対象に外傷・障害調査をおこなった報告は少なく、その実態は明らかではない。

そこで本研究では、中学校及び高校の水泳部活動における外傷・障害の実態を調査、さらに発生した傷害への対応(フィジカルケアサポート)について記録し、傷害予防プログラムを立案するための一資料とすることを目的とした。

## II. 方法

### 1. 対象

京都府の私立中学校及び高校の水泳部競泳に所属する選手53名(中学男子、中学女子、高校男子、高校女子)とした。

### 2. 傷害の定義

水泳競技における疫学調査の先行研究では、「外傷・障害」という言葉が用いられているが、本研究では便宜上、「傷害」という言葉を用いる。

### 3. 調査方法

#### 3-1 データ収集

対象者が練習を行っている場所へ毎月1回訪問し、身体に痛みなど自覚的症状を訴えた者から直接聞き取り調査を行った。調査期間は、平成24年1月～12月までの1年間とした。

#### 3-2 聞き取り調査の項目

##### ① 傷害部位

痛みなど自覚的症状が出現している部位を傷害部位とし、頭頸部、肩(肩甲帯を含む)、上腕、前腕・手部、腰(腰背部、骨盤帯を含む)、股関節、膝(大腿部を含む)、下腿・足部に分類した。

##### ② 時期(1月～12月)

傷害の発症した月を記録した。

##### ③ 学年(中学／高校)

中学と高校の2つに分類し、発症した時点でのカテゴリーを記録した。

##### ④ 競技成績(全国・近畿出場／府下大会出場)

近畿大会あるいは全国大会に出場した選手を全国・近畿出場レベルとし、府下大会に出場し、近畿大会へは進めなかった選手を府下大会出場レベルとした。

##### ⑤ 専門種目(自由形／バタフライ／背泳ぎ／平泳ぎ／個人メドレー)

各々の選手が専門とする種目を記録した。

#### 3-3 傷害への対処法の記録

医療系国家資格を有する者が傷害の状態を評価し、対処した施術内容を記録した。傷害への対処法は、運動療法として用いる体幹や肩甲帯などの安定化トレーニングを指導するエクササイズ指導(以下Ex指導)、ストレッチ指導(以下St指導)、アイシング指導(以下アイシング)、医療機関への紹介(以下医療機関)、徒手的アプローチ(以下徒手)の5項目とした。

#### 4. 分析項目

単純集計として、「傷害発生部位の比率」「傷害への対処法の比率」を算出した。クロス集計として、「時期別傷害発生数」「学年別傷害部位」「競技成績別傷害部位」「傷害部位別対処法」を算出した。

なお、専門種目にに関して、一個人で複数種目の選手や調査期間中に専門種目を変更する選手があつたため、分析項目から除外した。

#### 5. 統計分析

クロス集計の結果に対し、Microsoft office Excel 2007の分析ツールを用いてカイ二乗検定を行った。統計的有意水準は5%とした。

## III. 結果

### 1. 傷害発生部位

図1には傷害発生部位の比率を示した。肩51.3%，腰25.0%，膝12.5%，上腕5.0%，その他の部位合わせて6.3%と肩が最も高率であった。肩に次いで、腰、膝の順に高率を示した。

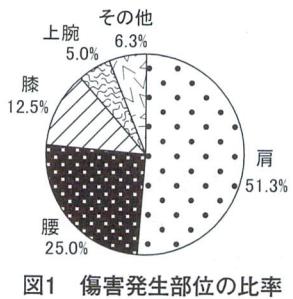


図1 傷害発生部位の比率

## 2. 時期別傷害発生数

図2には時期別傷害発生数を示した。傷害発生数は、1月3件、2月8件、3月8件、4月17件、5月10件、6月8件、7月2件、8月3件、9月4件、10月3件、11月3件、12月11件であった。発生数は4月(17件)で最も多く、次いで12月(11件)、5月(10件)の順に多かった。

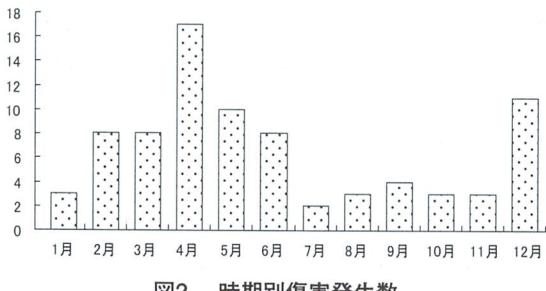


図2 時期別傷害発生数

## 3. 学年別傷害部位

図3には学年別傷害部位の比率を示した。中学における傷害部位の比率は、肩44.4%，腰27.8%，膝19.4%，上腕2.8%，他の部位5.6%であった。一方、高校における比率は、肩56.8%，腰22.7%，膝6.8%，上腕6.8%，他の部位6.8%であった。傷害部位の発生比率は、中学、高校ともに肩が最も高率を示し、次いで腰、膝と同じ傾向を示した。カイ二乗検定の結果、学年と傷害部位の間に関連がないことを示した( $p=0.40$ )。

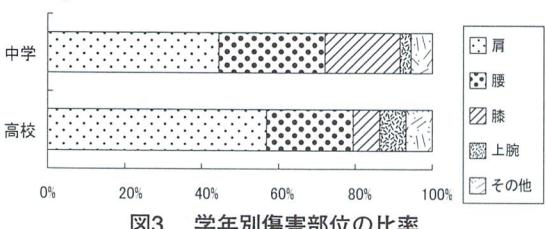


図3 学年別傷害部位の比率

## 4. 競技成績別傷害部位

図4には競技成績別傷害部位の比率を示した。府下大会出場者における傷害部位の比率は、肩42.9%，腰14.3%，膝25%，上腕10.7%，他の部位7.1%であった。全国・近畿出場者の比率は、肩55.8%，腰28.8%，膝5.8%，上腕1.9%，他の部位7.7%であった。両者とも肩が最も高率で、次いで腰、膝の順と同じ傾向を示したものの、全国・近畿出場者は府下大会出場者と比較して、腰の傷害発生比率が高い比率を示した( $p=0.03<0.05$ )。

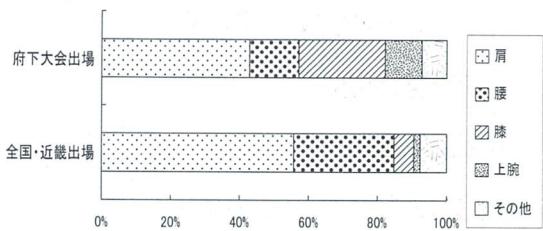


図4 競技成績別傷害部位の比率

## 5. 傷害への対処法

図5には傷害への対処法の比率を示した。Ex指導37%，St指導33%，アイシング指導20%，医療機関への紹介6%，徒手的アプローチ4%とEx指導とSt指導が高い比率を示した。

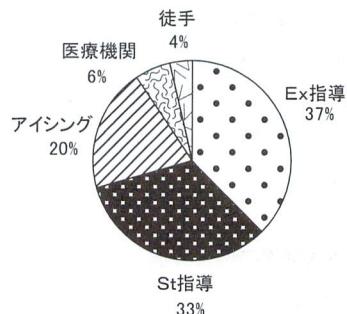


図5 傷害への対処法の比率

## 6. 傷害部位別対処法

図6には傷害部位別対処法の比率を示した。肩の傷害への対処法は、徒手4.8%，St指導28.0%，Ex指導36.6%，アイシング21.9%，医療機関8.5%であった。腰の傷害への対処法は、徒手0%，St指導34.7%，Ex指導60.8%，アイシング0%，医療機関4.3%であった。膝の傷害への対処法は、徒手0%，St指導53.3%，Ex

指導26.7%, アイシング20%, 医療機関0%であった。上腕の傷害への対処法は、徒手12.5%, St指導50%, Ex指導12.5%, アイシング25%, 医療機関0%であった。その他の部位への対処法は、徒手0%, St指導25%, Ex指導25%, アイシング50%, 医療機関0%であった。腰の傷害への対処法では、Ex指導が60%と他の部位の傷害よりも比率が高い傾向を示した( $p=0.08<0.1$ )。

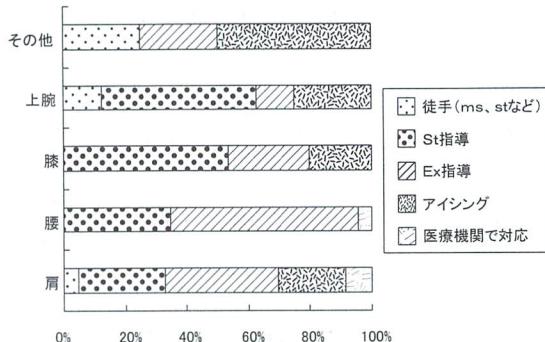


図6 傷害部位別対処法の比率

## IV 考察

### 1. 傷害発生の時期

調査の結果、傷害発生数は4月(17件)で最も多く、次いで12月(11件)、5月(10件)の順であった。春休み、ゴールデンウィーク中の合宿、冬休みなど学校の休み期間は通常より練習回数が増えるため、練習量の増加がこれらの時期に傷害発生が多かった要因として考えられる。

### 2. トップ下競泳選手の傷害実態

肩51.3%、腰25.0%、膝12.5%、上腕5.0%、その他の部位合わせて6.3%と肩が最も高率であった。また、学年と傷害部位との間に関連があることを示さなかった。したがって、トップ下競泳選手中学生・高校生における傷害は、肩の傷害が最も多いことを示した。岡田ら(1999)は、小学生から中学生を対象に傷害調査を行った結果、肩甲帯部の障害が最も多く、次いで膝関節、腰部の順であったと報告している。また、小泉ら(2010)の調査によると、小学生では肩甲帯部の割合が高く、中学生以降は腰部の割合が高かったと報告している。本

研究の結果もこれらの先行研究と一致するものであり、ジュニア世代では肩の傷害に注意する必要があると考えられる。

### 3. 競技成績と傷害部位の関連

本調査では、競技成績を府下大会出場レベルと全国・近畿大会出場レベルにて比較した。その結果、傷害部位の比率は、ともに肩、腰、膝、上腕の順であつたものの、全国・近畿レベルでは腰28.8%と府下レベル(14.3%)より高い比率を示した。有吉の行った腰痛調査では、自由形の成績上位選手では下位選手より腰痛の発生頻度が高かったと報告しており、本研究もこれを支持する結果であった。一方、日本代表クラスの一流競泳選手を対象とした片岡ら(2001)、半谷ら(2010)の先行研究では、いずれも腰、肩、膝の順で腰部障害が最も高率であったと報告しており、競技成績が上位になると腰部障害の頻度が高くなる可能性が推測される。

肩の障害の発生要因の一つとして、プル動作におけるローイングの減少が考えられており(小泉, 2011)、肩関節へのストレス集中を避けるためには、胸郭の回旋運動を伴った肩甲骨の可動性が必要である。今回の対象者の泳動作を水中より観察した結果、肩の傷害を有する選手ではローイングの際に胸郭の回旋運動が減少している傾向が観察された。また、胸郭の回旋運動を観察できた者は競技成績が上位である傾向であった。水中での動作観察の結果、胸郭回旋運動が肩の傷害発生及び競技パフォーマンスにも影響を及ぼす可能性があると推測する。

### 4. 傷害への対処法について

今回、Ex指導、St指導、アイシング、医療機関、徒手に分けて調査したところ、Ex指導38%、St指導33%が高率であった。特に腰の傷害への対処法では、Ex指導が高率を示した。これらの結果は、傷害の問題点としてover useによる筋の疲労や筋の弱化が多かったためと推測する。実際、肩の傷害への対処例として、胸郭の柔軟性低下や肩甲胸郭関節の機能低下などの問題点に対し、柔軟性の改善のSt指導と機能改善のEx指導を取り入れることで傷害が改善される

ケースがあった。

## 5. 傷害予防に向けて今後の課題

本研究では、筋の柔軟性評価やアライメント評価など身体的特徴の客観的・定量的な評価をおこなっていなかったため、傷害への対処法の介入効果は明らかでない。また、泳動作の観察も主観的な評価であり、観察者の経験や技術によって一定の評価が変化する可能性があり、胸郭の回旋運動と競技成績及び傷害発生部位との関連も明らかではない。今後、身体的特徴や泳動作の客観的・定量的な評価を実施し、傷害発生との関連性及び対処法の介入効果を明らかにすることが傷害予防のプログラム立案に向けて望まれる。

## V 結語

本研究では、中学及び高校水泳部活動における傷害発生の実態を調査、さらに発生した傷害への対応を記録した結果、以下の結論を得た。

- 1.肩の傷害が最も頻度が高く、次いで腰、膝の順であり、ジュニア世代では肩の傷害に注意する必要がある。
- 2.競技成績が上位の選手では、下位の選手と比較して腰の傷害の比率は高かった。
- 3.今後、傷害予防に向けて身体的特徴の客観的・定量的な評価を実施し、傷害発生と対処法の介入効果について検討することが望まれる。

## 謝辞

本研究は平成24年度京都滋賀体育学会研究基金助成を受けて実施した。ここに厚く謝意を表します。

## 参考文献

- 1) 有吉護 (1990) 水泳選手における腰痛 . 臨床スポーツ医学 7 (2) : 197-203
- 2) 長谷川伸、長谷川亜弓、武藤芳照、太田美穂 (2001) 水泳のスポーツ障害と予防のためのバイメカニクス . 臨床スポーツ医学 18 (1) : 33-42
- 3) 半谷美夏、金岡恒治、奥脇透 (2010) 一流水泳競技選手のスポーツ外傷・障害の実態：国立スポーツ科学センタースポーツクリニック受診者の解析 . 日本整形外科スポーツ医学会雑誌 30 (3) : 161-166
- 4) 岡田知佐子、山田均 (1999) ジュニア水泳選手のメディカルチェック結果について. 平成10年度水泳医科学研究報告集 : 20-24
- 5) 小泉圭介 (2010) 一流競泳選手に対する障害既往調査(腰痛の既往と競技成績の関係について). 2009年度早稲田大学大学院スポーツ科学研究科リサーチペーパー
- 6) 片山直樹、石川知志、金岡恒治、武藤芳照、有吉護、園田昌毅 (2001) 一流水泳選手の水泳に伴う外傷・障害. 日本整形外科スポーツ医学会雑誌 20 (1) : 34-41
- 7) 小泉圭介 (2011) 競技特性に応じたコンディショニング－水泳競技－ . 臨床スポーツ医学28 臨時増刊号 : 363-372
- 8) Mountjoy Margo, Junge Astrid, Alonso Juan Manuel, etc. (2010) Sports injuries and illnesses in the 2009 FINA World Championships (Aquatics) . British journal of sports medicine. 44 (7) : 522-527
- 9) 武藤芳照 (1989) 水泳の医学 II. ブックハウス HD : pp.112-122
- 10) 宗田大 編纂(2011)復帰をめざすスポーツ整形外科. メジカルビュー社 : pp.302-305  
(2013年7月2日受付、2013年7月31日受理)

# 京都滋賀体育学会だより No.37

<http://www.kyoto-taiiku.com>

## I 平成25年度事業報告

### (1) 第143回京都滋賀体育学会大会

日時：2014年 3月 8日（土）

会場：京都大学（吉田キャンパス）大学院人間・環境科学研究科棟 地階大講義室

大会会長：森谷敏夫（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

参加者：86名（正会員：44名、臨時会員：42名）

大会のスケジュール

8:30～9:00 受付

9:00～9:10 オープニング

9:15～12:15 一般研究発表

13:20～15:00 シンポジウム

15:10～16:10 基調講演

16:10～17:00 総会・奨励賞表彰

17:00～17:10 クロージング

一般研究発表は、2つの会場で行われ、すべて口頭発表であった（発表時間8分、質疑応答時間4分）。

セッション1-A「マネジメント」座長：松永敬子（龍谷大学）

岡崎仁志（滋賀大学）小学校中・高学年におけるネット型ゲーム教材の開発 一戦術課題の系統性を基にして一

堀池正敏（京都工芸繊維大学）体罰の認知及び許容に関する意識調査 一発生状況と行為内容の観点から一

佐藤 鑿（びわこ成蹊スポーツ大学）レジャー志向とスポーツ行動に関する研究 一レジャー意識の違いによる潜在的スポーツ実施者の探索一

セッション2-A「投動作」座長：来田宜幸（京都工芸繊維大学）

水島 淳（京都教育大学）円盤投げにおけるコーチング実践と印象分析の科学的検証

西 純平（立命館大学）野球打撃におけるバスター動作活用法の検討

神谷将志（京都工芸繊維大学）中高野球選手における体幹パワーとパフォーマンスの関係 一MBスローとスイング速度を指標として一

水口善文（京都教育大学）男子やり投のクロスステップのリズムに関する研究 一クロスステップのリズムの定量化一

セッション3-A「走行」座長：藤井慶輔（日本学術振興会・京都大学大学院）

山田朋花（京都教育大学）足関節固定補助装具が小学校高学年の疾走動作に与える影響 一教具としての活用を考えて一

柴原健太（びわこ成蹊スポーツ大学）小学生における短期間のトレーニングが加速区間の疾走動作に与える影響 一股関節筋力と動作トレーニングを行った場合一

大月菜穂子（京都教育大学）女子短距離選手における曲走路疾走動作の研究

野上大介（京都教育大学）長距離走におけるダンベルランニングの効果

セッション4-A「動作解析」座長：木村哲也（立命館大学）

大桐 将（山田整形外科病院リハビリテーション科・京都工芸繊維大学大学院）理学療法士の動作観察時における差異について 一半構造化面接法を用いた比較検討一

萩生翔大（日本学術振興会・京都大学大学院）筋シナジーに基づく歩行と走行の相転移の解明

小宗 真（京都教育大学）競泳のリレー種目における引き継ぎ動作分析 一飛び出し角度がパフォーマンスに与える影響一

セッション1-B「コーチング・教育」座長：野村照夫（京都工芸繊維大学）

岡本麻以（立命館大学）大学学運動部におけるチームメイトからの被受容感がチームゴールコミットメントに与える影響 一組織内自尊心と他者志向的動機に着目して一

上田滋夢（大阪成蹊大学）OODA ループ意志決定理論による“Winning Formula”の確率 一勝利のためのコーチング理論の試み一

小松崎 敏（京都教育大学）ICT を活用した体育授業にはどのような事例が考えられるか 一中・高等学校での体育授業実践を踏まえて一【研究基金学術研究報告】

黒澤寛己（京都市立塔南高等学校）中学校武道必修化に対応した「柔道授業」の実践研究 一柔道指導プログラムの改善を事例に一【研究基金学術研究報告】

セッション2-B「行動・教育」座長：小松崎 敏（京都教育大学）

渡辺史子（立命館大学大学院）スポーツを「みる」行動がスポーツを「する」行動意図に及ぼす影響 一精緻化見込みモデルの2ルートを考慮したスポーツ映像の視聴による効果一

高倉晃生（佛教大学大学院）体育授業における教師の視線の動向と実践的知識の検討 一小学校における若年教師と熟練教師の比較を通して一

田中克尚（びわこ成蹊スポーツ大学）柔道授業における事故に関する一考察

セッション3-B「筋量・筋力」座長：真田樹義（立命館大学）

中根静香（びわこ成蹊スポーツ大学）柔道選手の減量が身体に及ぼす影響に関する一考察

戸田遙子（立命館大学）超音波装置を用いたアスリートの骨格筋量推定式の開発

澤山奈里（滋賀県立大学）10代における体の柔軟性の変化と体の痛みの自覚症状

下崎陽平（立命館大学）コリジョン（衝突）スポーツにおける腰部筋横断面積と下肢及び腰部障害との関係

セッション4-B「跳躍動作」座長：小山宏之（京都教育大学）

柴田篤志（京都教育大学）日本一流走幅跳選手のバイオメカニクス的研究 一踏切準備動作によるタイプ分け一

礒崎大二郎（京都教育大学）世界および日本一流走高跳選手の踏切動作の比較

中嶋紘希（びわこ成蹊スポーツ大学）水平方向跳躍の脚動作特性について

シンポジウム：これからのスポーツを科学する～京滋の若手研究者の挑戦～

司会 神崎素樹(京都大学大学院)

演者 吉倉秀和(びわこ成蹊スポーツ大学)【マネジメント】『スポーツマネジメントとしての価値共創』

木村哲也(立命館大学)【運動生理】『上肢体性感覚の歩行バランスへの効果』

田辺弘子(日本学術振興会・京都大学大学院)【運動制御】『倒立四重振子モデルを用いたつま先立位の安定性と関節コーディネーションの検討』

谷川哲朗(京都工芸繊維大学)【コーチング】『アクアティックスポーツに関する実践・研究の現状と課題』

基調講演：「最新の運動医科学：生活習慣病における運動と栄養の役割」森谷敏夫先生(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)

**(2) 平成25年度京都滋賀体育学会総会**

日時：平成26年3月8日(土)

場所：京都大学 大学院人間・環境学研究科棟 地階大講義室

**1) 審議事項**

①平成25年度実施事業報告(芳田常務理事代行)

1. 第143回京都滋賀体育学会大会
2. 第143回京都滋賀体育学会総会
3. 京都滋賀体育学会理事会(6回)
4. 京都滋賀体育学会シンポジウム
5. 京都滋賀体育学研究第29巻第1号発行(平成25年7月)  
同 第2号発行(平成26年2月)

6. 京都滋賀体育学会研究基金活用事業  
学術研究助成、奨励論文賞、若手研究奨励賞
7. 京都滋賀体育学会研究集会
8. 日本体育学会第64回大会補助
9. 平成26-27年度役員選挙と新役員体制の発足

②平成25年度決算報告(来田会計担当理事)

別紙1

③平成25年度会計監査報告(長積監事)

別紙2

④京都滋賀体育学会会則の一部改正案(芳田常務理事代行)

- 1) 京都滋賀体育学会会費の未納等における除名規程について  
「総会審議事項」を「理事会審議事項」に変更する。
- 2) 変更期日は平成26年4月1日付けとする。

## 京都滋賀体育学会会則の一部改正案（新旧対照表）

昭和27年 7月5日制定施行  
 平成25年 4月1日一部改正  
 平成26年 4月1日一部改正

新	旧
1~5. 省略	1~5. 省略
6. 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、理事会の議決を経て、会長が除名することができる。 (1)本学会の名誉を傷つけ、又は目的に違反する行為があったとき (2)本学会の会員としての義務に違反したとき (3)会費を2年以上滞納したとき	6. 会則が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の議決を経て、会長が除名することができる。 (1)本学会の名誉を傷つけ、又は目的に違反する行為があったとき (2)本学会の会員としての義務に違反したとき (3)会費を2年以上滞納したとき
7~25. 省略	7~25. 省略
26. この会則は、平成26年4月1日から実施する。	26. この会則は、平成25年4月1日から実施する。

## ⑤平成26年度事業計画案(芳田常務理事代行)

1. 第144回京都滋賀体育学会大会(平成27年3月開催予定・開催大学未定)
2. 京都滋賀体育学会総会(学会大会と同時開催)
3. 京都滋賀体育学会理事会
4. 京都滋賀体育学会大会講演会および実践研究会
5. 京都滋賀体育学研究第30巻発行(平成26年7月予定)
6. 京都滋賀体育学会学術推進事業(学術研究助成、奨励論文賞、若手研究奨励賞)
7. 京都滋賀体育学会研究集会活動

## ⑥平成26年度予算案(来田会計担当理事)

別紙2

以上の6項目について審議され、全て承認された。

## 平成26-27年度役員選挙結果

## 【選挙管理委員会】

委員長：木村みさか(京都滋賀体育学会監事)

副委員長：長積仁(京都滋賀体育学会)

## 【投票および開票】

告示日：平成25年12月26日

開票日：平成26年2月12日

選挙管理委員会事務局：立命館大学スポーツ健康科学部インテグレーションコア618教室

会員数(発送数)：296、返信数：61、有効票：59

事務局：岡本直輝　真田樹義　西純平(以上会員)による開票

立ち合い：長積仁(京都滋賀体育学会監事)　南島永衣子(会員)

## 【選挙による新理事】

岡本直輝(会長)、真田樹義(副会長)、芳田哲也(副会長)、来田宜幸、神崎素樹、松永敬子、中比呂志(常務理事)、長積仁

## 【会長推薦理事】

寄本明、野村照夫、佃文子、竹田正樹

## 【監事】

木村みさか、小松崎敏

## 2) 報告事項

### ①会員動向 (小松崎庶務理事)

平成24年3月1日現在 303名(京都滋賀体育学会のみ24名)

平成25年3月1日現在 323名(京都滋賀体育学会のみ24名)

平成26年3月1日現在 356名(京都滋賀体育学会のみ20名)

### ②学会誌編集状況 (寄本学会誌担当理事)

京都滋賀体育学研究第29巻第2号における訂正とお詫び

京都滋賀体育学研究編集・投稿規定の一部改訂

・原稿の種別(総説、原著論文、資料、実践研究)に3ページ以内(4500字)の「短報」を追加する。

### ③研究集会に関する規程の一部改正 (芳田常務理事代行)

1) 京都滋賀体育学会が承認する研究集会は、京都滋賀体育学会の共催としていることを明示する。

2) 選考方法に関する文言を追加する。

3) 変更期日は平成26年1月30日付けとする。

### ④第6回(平成26年度)京都滋賀体育学会学術研究助成の選考結果 (芳田 常務理事代行)

松井知之(京都府立医科大学附属病院)ほか2名による研究グループ

『女子プロ野球選手の身体機能とパフォーマンス及びスポーツ障害との関係』

西純平(立命館大学大学院)ほか1名による研究グループ

『バント・バスター戦術における相手内野手の守備研究』

### ⑤平成25年度京都滋賀体育学会学会賞(奨励論文賞)の選考結果(野村副会長)

該当論文なし

### ⑥平成25年度京都滋賀体育学会学会賞(若手研究奨励賞)の選考結果(野村副会長)

最優秀奨励賞: 戸田遙子(立命館大学)超音波装置を用いたアスリートの骨格筋量推定式の開発

最優秀奨励賞: 萩生翔大(日本学術振興会・京都大学大学院)筋シナジーに基づく歩行と走行の相転移の解明

奨励賞: 下崎陽平(立命館大学)コリジョン(衝突)スポーツにおける腰部筋横断面積と下肢及び腰部障害との関係

## (3) 研究集会活動

### 1) 学部生・院生を中心とした研究発表会

司話人: 野村照夫・内田和寿

#### ① 第1回研究発表会

日時: 平成25年9月17日(火)

場所: 京都工芸繊維大学京2号館

参加者: 15名

1. 小島理永(京都工芸繊維大学、大阪大学)「ヒップホップダンスにおける感情強度の違いが動作に及ぼす影響」
2. 田口あづさ(京都工芸繊維大学)「観光農園に関する研究」
3. 北村尚也(滋賀大学)「中学生の体育授業に対する苦手意識の実態評価」
4. 中島温美(京都工芸繊維大学)「FKをスピード重視とコントロール重視で蹴った時の相違点」

今後の研究計画」

5. 林美緒(京都工芸繊維大学)「食事誘発性熱産生－食事による自律神経活性の評価－」
6. 伊藤弘人(京都工芸繊維大学)「砂糖水溶液、食塩水溶液が味覚強度に及ぼす影響」

②第2回研究発表会

日時：平成25年12月23日（月）

場所：京都工芸繊維大学60周年記念館

参加者：30名

1. 西純平(立命館大学)「野球打撃におけるバスター動作のタイミングに関する一考察」
2. 梶川大輔(大阪教育大学)「サッカーのリフティングにおける熟練者と初心者の動作比較」
3. 田口あづさ(京都工芸繊維大学)「果物の目利き～「美味しそう」に見える！でも実は？～」
4. 野上大介(京都教育大学)「長距離走におけるダンベルランニングの効果」
5. 豊嶋陵司(中京大学)「ステップの特性を考慮した最大疾走速度を高めるキネマティクス要因の検討」
6. 森本啓史(大阪教育大学)「競泳におけるバタ足動作について」
7. 吉田優輝(大阪教育大学)「競泳の引き継ぎ動作におけるモーション別比較～レース本番に焦点を当てて～」
8. 林美緒(京都工芸繊維大学)「朝食欠食習慣の有無による自律神経活性の評価」
9. 柴田篤志(京都教育大学)「男子走幅跳における踏切準備動作のバイオメカニクス的研究－動作の相違によるタイプ分け－」
10. 杉坂直輝(愛知教育大学)「バドミントンフットワークにおける3次元動作分析」
11. 白本愛(大阪教育大学)「水泳の中強度トレーニングに及ぼす水温の影響」
12. 山口恵里佳(大阪教育大学)「競歩における初心者と熟練者の比較について」
13. 中島温美(京都工芸繊維大学)「牛乳の代わりに豆乳は使えるか！？」
14. 小宗真(京都教育大学)「競泳のリレー種目における引き継ぎ動作分析～跳び出し角度がパフォーマンスに与える影響」
15. 平野達也(愛知教育大学)「400m走後半における疾走速度に影響を及ぼすバイオメカニクス的要因」
16. 辻本直悠貴(立命館大学)「鬼ごっここの運動特性の検討－サッカーのゲームとの比較から－」
17. 檀野俊(大阪教育大学)「男子円盤投げのイメージ動作と投擲動作の関係」
18. 堀池正敏(京都工芸繊維大学)「体罰に関するガイドラインとその意識調査」
19. 磯崎大二郎(京都教育大学)「傾斜板が走高跳の踏切動作に与える長期的効果」
20. 武市峻輔(大阪教育大学)「初心者と指導者の視覚フィードバック時における意識の違い～バスケットボールのセットシュートに関して～」
21. 横山勇大(立命館大学)「野球のスコアーブックの利用実態の研究」
22. 新本友香(大阪教育大学)「バレーボールのスパイクの助走時の初心者と経験者の比較」
23. 大月奈穂子(京都教育大学)「陸上競技の短距離走における曲走路疾走動作の研究－女子選手を対象として－」
24. 松本智好(大阪教育大学)「ハンマー投における初心者の動作についての 投射角度と足の位置

に着目して」

25. 北村尚也(滋賀大学)「中学生の体育授業に対する意識の実態評価」
26. 増田昇大(大阪教育大学)「サッカーのトラップ時における初心者と熟練者の動作分析」
27. 樋口栄美穂(大阪電気通信大学)「ストレッチによる下肢における筋バランスの改善」
28. 山田朋花(京都教育大学)「足関節固定補助装具が小学生高学年の疾走動作に与える影響」

## 2) 野球選手の身体機能に関する研究会研究発表会

世話人：来田宣幸・松井知之

日時：平成25年12月20日(金)

場所：京都ロイヤルホテル&スパ

参加者：60名

1. 女子プロ野球選手として輝き続けるために一けがの予防とパフォーマンス能力ー(森原徹)
2. 女子プロ野球選手の身体特性ー筋力と可動域ー(松井知之)
3. 女子プロ野球選手の身体特性ーパフォーマンスを視点にー(来田宣幸、渡邊裕也、早乙女誉)

## 3) 武道教育研究集会(参加者計14名)

世話人・発表者：有山篤利・黒澤寛己

日時：平成25年9月10日(火)・平成25年12月7日(土)

場所：同志社大学

柔道創始者「嘉納治五郎」の教育活動についての研究発表

柔道の普及・広報活動についての研究発表

## 4) 舞踏に関する講演会

世話人・発表者：遠藤保子・漆原 良

日時：平成25年11月29日(金)・2. 平成25年12月21日(土)

場所：立命館大学

参加者：100名

講演会「モーションキャプチャを利用したアフリカの舞踏に関する総合研究」

1. 舞踏の伝承・記録に関する歴史及びケニア社会・文化の説明、ケニア人アーティスト o. Omondi、G. Nina による舞踏デモンストレーション(参加者70名)
2. モーションキャプチャを利用した舞踏のデジタル記録法とケニアの舞踏データの紹介(ステイックフィギュア)とその解析結果(参加者30名)

## 5) 体育経営管理研究集会(学生合同研究発表会)

世話人：松永敬子・長積 仁

日時：平成26年2月9日(日)

場所：大阪成蹊学園びわこセミナーハウス

参加者：55名

1. 「地元フードイベントにおけるエコストーション運営に関する報告」青木巧ほか(びわこ成蹊スポーツ大学)
2. 「京都マラソン×龍大スポマネ lab. ×京念珠～ KYO「TO」HOKU～プロジェクト」活動報告」吉川大智(龍谷大学)
3. 「京都市事務事業評価サポートー制度活動報告」澤奈央実(龍谷大学)

4. 「ゼミ活動報告」渡辺翼・松井佑太(立命館大学)
5. 「ユニバーサルデザインの視点からみた体育授業の検討」久保田慧史(京都教育大学)
6. 「体育授業におけるリスクマネジメント」中田卓真(京都教育大学)
7. 「教育実習前に行われる実地教育の効果と課題—京都教育大学を対象として—」藤村久美(京都教育大学)
8. 「大学を拠点とする地域スポーツクラブの在り方—京都教育大学地域スポーツクラブを対象として—」原友梨子(京都教育大学)
9. 「SABRmetrics理論によるNPB所属球団のチーム強化策に関する研究」長橋順平(龍谷大学)
10. 「プロ野球球団におけるSNS活用に関する研究」大友優(びわこ成蹊スポーツ大学)
11. 「スポーツインソール普及に関するマーケティングプラン考察」長田涼(びわこ成蹊スポーツ大学)
12. 「スポーツアスリートの広告効果—日本人アスリートと外国人アスリートの比較—」植村紫苑(びわこ成蹊スポーツ大学)
13. 「Jリーグ参入に向けたクラブ戦略に関する研究—奈良クラブを例に—」山本翔平(びわこ成蹊スポーツ大学)
14. 「新設サッカースタジアムに求められる環境要因の検討—京都スタジアムに関するケーススタディー」田中波純(びわこ成蹊スポーツ大学)
15. 「ファンクラブの知覚価値—Jリーグクラブの顧客関係管理における検証—」高井啓伍(びわこ成蹊スポーツ大学大学院)
16. 「民間フィットネスクラブのブランドイメージ—数社間による横断的比較を用いて—」弓本淳貴(びわこ成蹊スポーツ大学)
17. 「プロスポーツイベントのファミリーエンターテイメント性—イベントの娯楽的側面に着目して—」奥一将(びわこ成蹊スポーツ大学)

#### (4) 平成25年度京都滋賀体育学会理事会

第1回：2013年4月16日(火曜日)18時30分：キャンパスプラザ京都

議題：1. 議事録(作成者)の確認 2. 平成25年度の京都滋賀体育学会について—今年度の事業計画— 3. 平成25年度の役割分担について 4. 選挙に向けて事務局の設置案 5. 60周年企画(記念誌)の進捗状況 6. 京都滋賀体育学研究への短報の投稿・掲載について 7. その他

第2回：2013年6月4日(火曜日)18時30分：キャンバスプラザ京都

議題：1. 議事録の確認 2. 京都滋賀体育学研究への短報の投稿・掲載について 3. 講演会・実践研究会について 4. 研究助成金の振込について 5. その他

第3回：2013年9月17日(火曜日)18時30分：キャンバスプラザ京都

議題：1. 議事録の確認 2. 京都滋賀体育学研究への短報の投稿・掲載について 3. 京都滋賀体育学研究第29巻2号の内容について 4. 研究集会の応募について(松永先生) 5. 日本体育学会地域連絡会議での検討事項(入会方法, 入会金, 補助金配分, 学会大会開催順)について 6. ホームページの更新について 7. その他

第4回：2013年12月3日(火曜日)18時30分：キャンバスプラザ京都

議題：1. 議事録の確認 2. 京都滋賀体育学研究への短報の投稿・掲載に関する具体的な案について 3. 京都滋賀体育学研究第29巻2号の内容について 4. ホームページの更新について 5.

## その他

第5回：2014年1月30日（木曜日）18時30分：キャンパスプラザ京都

議題：1. 議事録の確認 2. 京都滋賀体育学研究への短報の投稿・掲載に関する具体的な案について 3. 京都滋賀体育学会奨励論文賞および学術研究助成の選定について 4. 規定・公募要領・申請書・報告書の改訂について 5. その他

第6回：2014年2月25日（火曜日）18時30分：キャンパスプラザ京都

議題：1. 議事録の確認 2. 各種規定・公募要領・申請書・報告書・執筆要項の改訂に関する新たな内容と手順について 3. 総会の準備と役割分担について 4. 京都滋賀体育学会学術研究助成の選定について 5. 平成26年～平成28年の役員について 6. 名誉会員の推薦について 7. 日本体育学会への回答について 8. その他

## II 平成25年度決算報告【別紙1】

## III 会計監査報告【別紙1】

## IV 平成26年度事業計画

1. 第144回京都滋賀体育学会大会（平成27年3月開催予定・開催大学未定）
2. 京都滋賀体育学会総会（学会大会と同時開催）
3. 京都滋賀体育学会理事会
4. 京都滋賀体育学会大会講演会および実践研究会
5. 京都滋賀体育学研究第30巻発行（平成26年7月予定）
6. 京都滋賀体育学会学術推進事業（学術研究助成、研究集会活動、奨励論文賞、若手研究奨励賞）

## V 平成26年度予算【別紙2】

## VI その他

### （1）会員の動向

平成24年3月1日現在 303名（京都滋賀体育学会のみ24名）  
平成25年3月1日現在 323名（京都滋賀体育学会のみ24名）  
平成26年3月1日現在 356名（京都滋賀体育学会のみ20名）

## 事務局連絡先のお知らせ

京都滋賀体育学会事務局

〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 京都教育大学体育学科

中比呂志(京都滋賀体育学会常務理事)

TEL: 075-644-8280, E-mail:gori@kyoto-u.ac.jp

## 京都滋賀体育学会ホームページのお知らせ

<http://www.kyoto-taiiku.com> (きょうと - たいいくドットコム)  
info@kyoto-taiiku.com (インフォ @ きょうと - たいいくドットコム)

京都滋賀体育学会ホームページを開設しました。今後コンテンツ等の充実につとめ、会員のみなさまに対する情報提供の場として活用していきたいと考えております。

## 事務局からのお願い

### ※会費の納入について

日本体育学会会員は12,000円(京都滋賀体育学会会費2,000円を含む)を日本体育学会事務局へ納入して下さい。自動払込制度を利用されている会員は、7月上旬に引き落としとなります。新会員の方は自動振込手続きをとって下さい。

京都滋賀体育学会だけに所属する会員は、2,000円を下記口座に納入して下さい。

郵便振替口座番号: 01070-7-23829

他金融機関からの振込の場合

ゆうちょ銀行 一〇九(イセツ ヨウ)店 当座 0023829

加入者名: 京都滋賀体育学会

京都滋賀体育学会入会の手続きについては、事務局までご連絡下さい。また、会員の所属、住所(電話)などに変更が生じた場合にもご連絡をお願い致します。

※日本体育学会年会費の自動引き落としタイミングは、年4回(7月、11月、2月、4月)です。  
引き落としができない場合には、退会者扱いとなり、学会大会案内や体育学研究の送付が停止されますのでご注意ください。

## 論文募集

「京都滋賀体育学研究」に掲載する論文を募集します。投稿規定・執筆要項に従って投稿して下さい。会員皆様の投稿をお待ちしております。

論文投稿先(編集委員会連絡先)

〒 605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35

京都女子大学 家政学部 食物栄養学科 寄本明研究室

TEL/FAX : 075-531-7185, E mail: [yorimoto@kyoto-wu.ac.jp](mailto:yorimoto@kyoto-wu.ac.jp)

---

## 【別紙1】

## 平成25年度決算報告

## 平成25年度 京都滋賀体育学会決算報告

## 1. 一般会計収支計算書(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

収入	予算額	決算額	予算差	備考
繰越金	457,712	457,712	-	
会費	500,000	641,000	141,000	年会費:2,000円×308人=616,000円 入会金:500円×50人=25,000円
学会本部補助金	61,300	63,100	1,800	
基金より	350,000	350,000	-	
広告協賛金	100,000	-	-100,000	
合計	1,469,012	1,511,812	42,800	(A)
支出	予算額	決算額	予算差	備考
学会事業費				
・補助金	250,000	250,000	-	学会大会・総会:100,000円 研究集会:30,000円×5件
・学会賞費	80,000	50,000	-30,000	若手研究奨励賞:最優秀1件×3万円、優秀2件×1万円
・印刷費	300,000	312,923	12,923	学会誌(第29巻)印刷郵送料、過去データpdf化
・60周年事業費	350,000	709,636	359,636	記念事業開催経費(懇親会補助、テープ起こし、第29巻第2号)
学会運営費				
・編集委員会費	30,000	30,000	-	運営費等
・会計費	15,000	3,360	-11,640	振込手数料
・庶務費	60,000	60,000	-	名簿整理・会議費等
・役員選挙経費	50,000	62,000	12,000	郵便通信費・印刷費等
・広報費	100,000	10,000	-90,000	HP管理等
予備費	248,458	-	-248,458	
合計	1,483,458	1,487,919	4,461	(B)
次年度繰越金		23,893		(A)-(B)

以上、相違ありません。 監査

木下めさか  
長賀 仁

## 2. 特別基金収支計算書(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

収入	決算額
繰越金	1,944,608
利息	444
合計	1,945,052
支出	決算額
研究助成(2件)	400,000
振込手数料(2件)	840
一般会計へ	350,000
合計	750,840
次年度繰越金	1,194,212

(A)  
(B)  
(A)-(B)

以上、相違ありません。 監査

木下めさか  
長賀 仁

【別紙2】

平成26年度 京都滋賀体育学会予算

一般会計

収入

費目	予算額
繰越金	23,893
会費	620,000
学会本部補助金	63,100
基金より	300,000
広告協賛金	50,000
合計	1,056,993

支出

費目	予算額
<b>学会事業費</b>	
・補助金	250,000
・学会賞費	50,000
・印刷費	300,000
<b>学会運営費</b>	
・編集委員会費	30,000
・会計費	4,000
・庶務費	60,000
・広報費	20,000
<b>予備費</b>	<b>342,993</b>
合計	1,056,993

# 京都滋賀体育学会会則

昭和27年 7月 5日	制定施行
昭和37年 6月 9日	改正
昭和41年 6月 6日	改正
昭和49年 4月 1日	一部改正
昭和54年 4月 1日	一部改正
昭和55年 4月 1日	一部改正
昭和60年 4月 1日	一部改正
昭和62年 4月 1日	一部改正
平成 5年 4月 1日	一部改正
平成 9年 4月 1日	一部改正
平成10年 4月 1日	一部改正
平成19年 4月 1日	一部改正
平成23年 4月 1日	一部改正
平成24年 4月 1日	一部改正
平成25年 4月 1日	一部改正
平成26年 4月 1日	一部改正

## 1. 総 則

- この会を京都滋賀体育学会 (Kyoto and Shiga Society of Physical Education, Health and Sport Sciences) と称する。  
この会は日本体育学会京都滋賀地域を兼ねる。
- この会は体育に関するあらゆる科学的研究をなし、体育学の発展を図り、体育の実践に寄与することを目的とする。

## 2. 会 員

- この会は前条の目的に賛同する個人および団体をもって組織する。
- 会員は正会員、購読会員および臨時会員とする。正会員になるには正会員の紹介と理事会の承認を要する。  
臨時会員の資格は、資格取得の当該年度内のみとする。
- 会員が退会しようとするときは、退会届を会長に提出しなければならない。
- 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、理事会の議決を経て、会長が除名することができる。
  - (1)本学会の名誉を傷つけ、又は目的に違反する行為があったとき
  - (2)本学会の会員としての義務に違反したとき
  - (3)会費を2年以上滞納したとき
- 会員は、次の事由によってその資格を喪失する。
  - (1)退会したとき (2)死亡し、または失踪宣言を受けたとき (3)除名されたとき

## 3. 機 関

- この会の運営は次の機関による。
  - (1)総会 (2)理事会
- 本会には次の役員を置く。  
会長1名、副会長2名、常務理事1名を含む10名以上の理事および監事2名
- 会長、副会長、理事、監事は正会員より別に定める方法により選出する。
- 総会は、会長の召集の下に毎年1回開催し、当日の出席会員をもって構成する。
- 総会、理事会の議事は出席者の過半数をもって決する。
- 理事会は会長、副会長、理事を以て構成し、常務理事は議長となる。  
理事会は会長がこれを招集する。
- 会長は、会を代表し会務を総括する。副会長は、会長に事故ある時はその任務を代行し、会を運営する。常

- 務理事は、会および理事会を運営する。理事は、会務を遂行する。監事は、理事の職務の執行を監査し、理事に対して事業の報告を求め会務の状況を調査することができる。
15. 理事会は、会計理事、庶務理事、専門理事等を選出し、各理事の役割を明確にする。
  16. 役員の任期は2年とする。但し重任を妨げない。
  17. 本会は総会の承認を得て、顧問および名誉会員を置くことができる。

#### 4. 事業

18. この会の目的を達成するために次の事業を行う。
  - (1) 学会大会の開催
  - (2) 講演会等の開催
  - (3) 機関誌「京都滋賀体育学研究」の刊行
  - (4) その他この会の目的に資する諸事項
19. 学会大会は毎年1回以上これを開き、研究成果の発表を行う。
20. 機関誌「京都滋賀体育学研究」の編集は編集委員が担当する。

#### 5. 会計

21. この会の経費は次の収入によって支出する。
  - (1) 会員の入会金および会費
  - (2) 事業収入
  - (3) 他より助成金および寄付金
22. 入会金および会費の額は別に記す。名誉会員は会費を免除する。
23. この会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月末日とする。

#### 6. 附 則

24. この会の所在地および事務局は原則として常務理事の所属する学校に置く。
25. この会の会則は総会の議決により変更することができる。
26. この会則は、平成26年4月1日から実施する。

#### 記

入会金 500円(日本体育学会員となる場合には1,000円とし、その半額を京都滋賀地域が受ける)  
会費(1)正会員年額 2,000円  
    購読会員年額 1,000円  
    臨時会員費 1,000円  
なお、日本体育学会会員は定められた会費がこれに加わる。

京都滋賀体育学会事務局  
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 京都教育大学体育学科  
中比呂志(京都滋賀体育学会常務理事)  
TEL: 075-644-8280, E-mail: gori@kyoto-u.ac.jp  
郵便振替口座番号 01070-7-23829  
他金融機関からの振込の場合  
ゆうちょ銀行 一〇九(イチゼロキュウ)店 当座 0023829  
加入者名: 京都滋賀体育学会

\*退会・転出・転入・通勤先変更・転居等については、日本体育学会事務局へ直接届けると共に、京都滋賀体育学会事務局までご連絡ください。

# 役員選出方法に関する規程

平成19年3月3日 制 定  
平成25年4月1日 一部改正

## (目的)

1. 会則8条による役員選出を円滑にならしめるために本規定を定める。

## (選挙管理委員会)

2. 会長は正会員の中から、選挙管理委員を若干名委嘱し、選挙に関する事務処理をおこなうための選挙管理委員会を組織する。
3. 選挙管理委員会は、互選により委員長および副委員長を各1名選出する。

## (被選挙権、選挙権の付与)

4. 役員選挙に関する被選挙権は役員任期満了年度の前年度会員であり、当該役員選挙投票締切日において、引き正会員である者に付与される。
5. 役員選挙に関する選挙権は、当該選挙開始6ヶ月前までの正会員に付与される。

## (理事の選出)

6. 理事には会員選出理事および会長推薦理事をおくものとする。会員選出理事の選挙は、全会員の書面(郵送)投票によるものとし、選出定数を8名とする。
7. 投票は、予め送付した投票用紙を用いて、8名連記とし、指定の期日までに到着したものをもって有効とする。
8. 理事の当選者はそれぞれ得票数の順により、上位から定数までとする。同点者が生じた場合は、年少の者とする。

## (会長、副会長、常務理事、会長推薦理事、監事の選出)

9. 現会長は、選挙に選ばれた新理事を召集する。そして次期会長・副会長・常務理事は選挙により選出された理事による互選で決定する。
10. 会長は、会長推薦理事を若干名と監事2名を推薦し、選挙により選ばれた理事の承認を得るものとする。ただし理事には滋賀県にある大学の会員を1名以上含むものとする。
11. 会長の連続しての任期は3期までとする。

# 京都滋賀体育学会研究集会に関する規程

平成24年3月3日 制定  
平成26年4月1日 一部改正

1. (目的) 京都滋賀体育学会の正会員は次に定める項目を目的として、研究集会を開催できる。
  - 1) 体育・スポーツに関する専門分野の研究促進
  - 2) 他研究分野・他学会との連携
  - 3) 学会員の研究室に所属する学生・院生・研究生の交流の場に対する教育支援
2. (補助金) 京都滋賀体育学会理事会が承認した研究集会には学会共催として30,000円を上限として補助する。
3. (開催手続き) 研究集会は、2名以上の正会員が世話人となり、所定の様式(別紙1)に目的、内容(研究発表会、講演会、実験研修会など)、実施日時および場所、参加予定者を記入し、4月1日から7月末日までに京都滋賀体育学会常務理事宛に申請書を提出すること。研究集会は当該年度の2月末日までに1回程度開催する。
4. (選考方法) 京都滋賀体育学会理事会にて審議し、承認する。
5. (報告の義務) 世話人は、研究集会の講演または発表者、参加者、補助金の使用状況等を明記した書面(別紙2)にて当該年度の2月末日までに京都滋賀体育学会理事会に報告し、理事会は研究集会の内容を京都滋賀体育学会総会にて報告する。期日までに理事会への報告がない場合は補助金の返還を求める場合がある。

以上

平成17年3月5日 制定施行  
平成25年3月8日 制定施行  
平成26年4月1日 一部訂正

## 京都滋賀体育学会賞選考規程

京都滋賀体育学会賞を若手研究奨励賞、論文賞の二部門について定め、以下の選考方法にて決定する。表彰は原則として定例の京都滋賀体育学会総会にて行う。

1. 若手研究奨励賞：若手研究者（演者）の優秀な発表について表彰する。

選考方法：定例の京都滋賀体育学会にて発表された40歳未満の演者の中から出席者（会員および臨時会員）の投票に基づき理事会が決定する。投票の実施および開票はすべて理事会が行う。賞状ならびに副賞を授与する。

2. 奨励論文賞：今後の発展が期待できる研究論文について表彰する。

選考方法：各年度の京都滋賀体育学研究に掲載された論文（原著・資料・実践研究・報告）の中から、目的・方法が明確で今後の発展が期待できる研究内容について、学会賞選考委員会（以下、選考委員会）が決定し理事会が承認する。選考委員は10名程度とし、会長・常務理事・編集委員長の推薦により会員の中から選出する。論文賞の決定方法については選考委員会に一任し、選考委員長は決定方法を会員に公表する。尚、選考委員長以外の選考委員の名前は会員に公表しない。賞状ならびに副賞を授与する。

以上

## 京都滋賀体育学会研究基金に関する規程

1. 京都滋賀体育学会会員の研究活動を奨励援助し、学会の活性化と共に社会的貢献を目的として、①体育・スポーツ指導の実践 ②健康増進 ③体力・競技力向上などの調査・研究の発展と充実が期待される自由課題学術研究に対して、1件あたり20万円を上限とし3件程度に対して交付する。
2. 応募資格は、申請書提出期限において、京都滋賀体育学会の正会員であることとする。また応募数は、研究者1名につき1件のみとする。
3. 応募方法は所定の申請書に研究テーマ、目的、内容などを簡潔に書き、京都滋賀体育学会理事会が指定する期日（当日消印有効）および場所に提出する。
4. 選考方法は京都滋賀体育学会理事会にて選考委員会を設け、審査の後、理事会で承認する。
5. 助成者の内定は当該年度の京都滋賀体育学会総会で発表する。助成金は助成内定者が誓約書に署名捺印した後銀行振込にて交付し、助成者には目録を授与する。また助成内定者が誓約書の内容に同意しない場合は、助成金の交付を辞退することができる。
6. 助成者が助成金を使用して実施した研究内容は当該年度の京都滋賀体育学会大会で発表し、所定の期日までに報告書として京都滋賀体育学研究に論文を投稿することとする。投稿された論文の種類（原著、資料、実践研究、症例・実践報告、等）については、助成者（著者）と編集委員会が協議の上決定する。
7. 助成者が京都滋賀体育学会大会での発表と京都滋賀体育学研究への論文投稿の両方を完了しない場合、理事会が助成者に対して助成金の返還を求める場合がある。

以上

# 京都体育学会および京都滋賀体育学会 歴代会長・副会長・理事長

平成24年度～ 京都滋賀体育学会に移行

会 長			副 会 長			理 事 長		
氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間
川畠 愛義	京都大学 教授	昭27.7～ 昭35.3	木村 静男	立命館大学 教授	昭27.7～ 昭33.3	木村 静雄	立命館大学 教授	昭27.7～ 昭35.3
田渕 潔	同志社大学 教授	昭35.4～ 昭41.3	田渕 潔	同志社大学 教授	昭33.4～ 昭35.3	高木公三郎	京都大学 教授	昭35.4～ 昭41.3
高木公三郎	京都大学 教授	昭41.4～ 昭49.3	横川 隆範	京都学芸 大学教授	昭33.4～ 昭35.3	山岡 誠一	京都教育 大学教授	昭41.4～ 昭47.3
木村 静雄	立命館大学 教授	昭49.4～ 昭51.3	川端 愛義	京都大学 教授	昭35.4～ 昭39.3	万井 正人	京都大学 教授	昭47.4～ 昭49.3
田村 喜弘	京都大学 教授	昭51.4～ 昭53.3	木村 静雄	立命館大学 教授	昭35.4～ 昭49.3	末利 博	京都教育 大学教授	昭49.4～ 昭53.3
末利 博	京都教育 大学教授	昭53.4～ 昭55.3	近藤 博	京都学芸 大学教授	昭39.4～ 昭47.3	山田 敏男	京都工芸織 維大学教授	昭53.4～ 昭55.3
山岡 誠一	京都教育 大学教授	昭55.4～ 昭57.3	山岡 誠一	京都教育 大学教授	昭47.4～ 昭55.3	蜂須賀弘久	京都教育 大学教授	昭55.4～ 昭57.3
万井 正人	京都大学 教授	昭57.4～ 昭59.3	万井 正人	京都大学 教授	昭和49.4～ 昭57.3	伊藤 稔	京都大学 教授	昭57.4～ 昭61.3
竹内 京一	京都教育 大学教授	昭59.4～ 昭61.3	蜂須賀弘久	京都教育 大学教授	昭57.4～ 昭59.3	横山 一郎	京都教育 大学教授	昭61.4～ 昭63.3
蜂須賀弘久	京都教育 大学教授	昭61.4～ 昭63.3	山田 敏男	京都工芸織 維大学教授	昭57.4～ 昭61.3	佐藤 陽吉	京都女子 大学教授	昭63.4～ 平4.3
倉敷 千穂	同志社大学 教授	昭63.4～ 平4.3	蜂須賀弘久	京都教育 大学教授	昭59.4～ 昭61.3	小野 桂市	京都工芸織 維大学教授	平4.4～ 平8.3
川井 浩	京都大学 教授	平4.4～ 平10.3	伊藤 稔	京都大学 教授	昭61.4～ 昭63.3	田口 貞善	京都大学 教授	平8.4～ 平10.3
田口 貞善	京都大学 教授	平10.4～ 平16.3	倉敷 千穂	同志社大学 教授	昭61.4～ 昭63.3	中村榮太郎	京都大学 教授	平10.4～ 平12.3
森谷 敏夫	京都大学 教授	平16.4～ 平22.3	伊藤 稔	京都大学 教授	昭63.4～ 平4.3	寺田 光世	京都教育 大学教授	平12.4～ 平16.3
中井 誠一	京都女子 大学教授	平22.4～ 平24.3	横山 一郎	京都教育 大学教授	昭63.4～ 平8.3	中井 誠一	京都女子 大学教授	平16.4～ 平18.3
岡本 直輝	立命館大学 教授	平24.4～	佐藤 陽吉	京都女子 大学教授	平4.4～ 平6.3	岡本 直輝	立命館大学 教授	平18.4～ 平22.3
			瀬戸 進	大谷大学 教授	平6.4～ 平8.3	中 比呂志	京都教育大 学教授	平22.4～ 平25.3
			藤田 登	同志社大学 教授	平8.4～ 平14.3	常務理事(平成25年度改正)		
			八木 保	京都大学 教授	平8.4～ 平12.3	中 比呂志	京都教育大 学教授	平25.4～
			中村榮太郎	京都大学 教授	平12.4～ 平16.3			
			野原 弘嗣	京都教育 大学教授	平14.4～ 平16.3			
			寺田 光世	京都教育 大学教授	平16.4～ 平18.3			
			小田 伸午	京都大学 教授	平16.4～ 平22.3			
			中井 誠一	京都女子 大学教授	平18.4～ 平22.3			
			岡本 直輝	立命館大学 教授	平22.4～ 平24.3			
			芳田 哲也	京都工芸織 維大学准教授	平22.4～			
			野村 照夫	京都工芸織 維大学教授	平24.4～ 平26.3			
			真田 樹義	立命館大学 教授	平26.4～			

## 近年の学会大会開催大学

平成24年度～ 京都滋賀体育学会に移行

年 度	回	開 催 大 学
平成8年度	120回	滋賀大学
	121回	ノートルダム女子大学
	122回	立命館大学(衣笠)
平成9年度	123回	京都府立大学
	124回	京都大学
平成10年度	125回	龍谷大学
	126回	京都大学
平成11年度	127回	同志社大学
	128回	京都女子大学
平成12年度	129回	京都外国语大学
	130回	京都教育大学
平成13年度	131回	光華女子大学
平成14年度	132回	大谷大学
平成15年度	133回	立命館大学(草津)
平成16年度	134回	京都工芸繊維大学
平成17年度	135回	京都薬科大学
平成18年度	136回	京都大学
平成19年度	137回	龍谷大学
平成20年度	138回	同志社大学
平成21年度	139回	京都教育大学
平成22年度	140回	京都女子大学
平成23年度	141回	びわこ成蹊スポーツ大学
平成24年度	142回	京都ノートルダム女子大学 京都工芸繊維大学
	143回	京都大学

## 京都滋賀体育学会役員

名 誉 会 員	竹 内 京 一	(京都教育大学名誉教授)
	倉 敷 千 稔	(同志社大学名誉教授)
	武 部 吉 秀	(京都大学名誉教授)
	伊 藤 稔	(京都大学名誉教授)
	伊 藤 一 生	(東亜大学学院)
	藤 田 登	(同志社大学名誉教授)
	小 西 博 喜	(近畿福祉大学教授)
	八 木 保	(京都大学名誉教授)
	田 口 貞 善	(京都大学名誉教授)
顧 問	中 村 栄 太 郎	(京都大学名誉教授)
	野 原 弘 嗣	(京都教育大学名誉教授)
	寺 田 光 世	(京都教育大学名誉教授)
	大 山 肇	(京都外国语大学教授)
	岡 尾 恵 市	(立命館大学名誉教授)
	小 野 桂 市	(京都工芸纤维大学名誉教授)
	森 谷 敏 夫	(京都大学教授)
会 長	岡 本 直 輝	(立命館大学)
副 会 長	真 田 樹 義	(立命館大学) …… 若手研究奨励、涉外
	芳 田 哲 也	(京都工芸纤维大学) …… 学術推進
常 務 理 事	中 比 呂 志	(京都教育大学) …… 庶務統括
理 事	来 田 宣 幸	(京都工芸纤维大学) …… 会計
	長 積 仁	(立命館大学) …… 庶務、学会大会
	松 永 敬 子	(龍谷大学) …… 庶務、学会名簿
	神 崎 素 樹	(京都大学) …… 広報、学会大会
	竹 田 正 樹	(同志社大学) …… 学術研究助成
	佃 文 子	(びわこ成蹊スポーツ大学) …… 研究集会
	野 村 照 夫	(京都工芸纤维大学) …… 講演・実践研究会
	寄 本 明	(京都女子大学) …… 学会誌
監 事	木 村 みさか	(京都学園大学)
	小 松 崎 敏	(京都教育大学)

## 執筆要項

1. 論文の長さは、文献・図表・abstract を含め8ページ(12000字)までとする。但し超過した場合その費用は執筆者負担とする。なお、短報については3ページ以内(4500字)とし、abstractは100語程度、図表や引用文献は精査して必要最小限に抑えて(図表は1~2つ程度)紙面を取りすぎないようにする。

2. 本誌論文の原稿執筆にあたっては、下記の事項を厳守されたい。

- (1) 原稿は、ワードプロセッサ(A4判縦置き横書き、40字×30行、10枚、余白上下左右各3cm、フォント10.5ポイント)により作成し提出する。

原稿は、1枚目：題目・英文標題を記し副題をつける場合にはコロン( :)で続ける。英文タイトルの最初の単語は品詞の種類にかかわらず第1文字を大文字にする。その他は固有名詞など、特に必要な場合以外はすべて小文字とする。

2枚目：著者名とそのローマ字名、著者の所属名とその正式英語名及び所在地(英文字)、所属の異なる2人以上の場合は著者名の右肩に\*、\*\*、…印を付して、脚注に\*、\*\*、…印ごとに所属名とその正式英語名及び所在地(英文字)。大学の所属が学部の場合は学部名を、大学院の場合は研究科名を明記する。官公庁や民間団体の場合は部課名まで記入する。

3枚目：英文要約(タイプ用紙ダブルスペース250字以内)。この要約には、原則として研究の目的、方法、結果、および結論などを簡明に記述する。

4枚目：和文要約(編集用；英文要約と同一内容)。

5枚目以降本文、注記、参考文献、図・表の順に書く。

- (2) 外国人名・地名等の固有名詞には、原則として原語を用いること。固有名詞以外はなるべく訳語を用い、必要な場合は初出のさいだけ原語を付すること。
- (3) 数字は算用数字を用いること。
- (4) 参考文献の引用は執筆要項補足による。
- (5) 図・表は1枚の用紙に刷り上りと同様のサイズになるように1つだけ書く。また図と表のそれぞれに一連番号をつけ、図1、表3のようにする。(上記要項補足参照)
- (6) 図や写真的原稿は明瞭に作成し、Wordファイルに貼り付ける。受理後印刷の段階で明瞭なJPGまたはPDFファイル等の提出を求めることがある。なお、刷り上りは白黒になるので明度を考慮すること。
- (7) 図や表は本文に比べ大きな紙面を要する。(本誌1ページ大のものは1800文字の本文に当たる)から、その割合で本文に換算し全ページ数の中に算入すること。
- (8) 参考文献の書き方は以下の原則による。
- 文献記述の形式は雑誌の場合には、著者名(発表年)、題目、雑誌名、巻号、論文所在頁；単行本の場合には、著者名(発表年)、書名、版数、発行所、発行地、参考箇所の順とする。また記載は原則としてファースト・オーサーの姓(family name)のABC順とする。なお、上記要項補足参照。
- (9) 本文が欧文の場合には上記要項に準じ、著者名と所属名は和文でも記入し、和文要約は掲載用となる。

# 執筆要項補足

## 1. 本文

- 1) 見出し：見出し語は適宜用いることができる。
- 2) 符号：次のような符号を用いることができる。
  - (1) ピリオド(.) およびコンマ(,)
  - (2) 中黒(・)相互に密接な関係にあって、一帯となる文字や語句などを結ぶ際には中黒(・)を用いる。アルファベット文字を用いた用語には、中黒は使えない。  
〔例〕被験者 Y・K → Y.K.
  - (3) ハイフン(–)対語・対句の連結、合成語、ページの表記に用い、半角とする。
  - (4) ダッシュ(—)全角1 文字分のダッシュ(—)は期間や区間を示すのに用いる。  
波ダッシュ(～)は原則として用いない。  
全角2 文字分のダッシュ(——)は注釈的な説明をするのに用いる。
  - (5) 引用符は、和文の場合には「」を、英文の場合には“ ”を用いる。
  - (6) コロン(:)副題、説明、引用文などを導く場合に用いる。
  - (7) セミコロン(;)複数の文献が連続する場合に用いる。
  - (8) 省略府(….)引用文の一部あるいは前後を省略する場合は、  
和文の場合には3点リーダー(…),  
英文の場合には下付の3点リーダー(….)を用いる。

## 3) 数字：

- (1) 数を表示する場合は、原則としてアラビア数字を用いる。
- (2) 文字や記号の隅につける添え字はその位置に明瞭に表記する。

- 4) 単位：計量単位は、原則として、国際単位系(SI 単位系)とする。
- 5) 略語：論文中において高い頻度で使用される用語に対して、著者が便宜的に省略した語を用いる場合は、初出時に略さず明記し、(以下「……」と略す)と添え書きしてから、以後その略語を用いる。
- 6) 引用：論文中で文献を引用する場合には、基本的な文献を厳選し、正確に引用する。引用した文献はすべて文献表に掲載する。本文中の文献は原則として著者名と発行年で示す。ただし、この方式で表記することが著しく困難な場合はこの限りではない。

- (1) 本文中で文献の一部を直接引用するときは、引用した語句または文章を、和文の場合には「」、英文の場合には“ ”でくくる。その後に、( )で著者の姓(family name)を記入する。

### 〔例〕

- ① 「パンとバラの時代のスポーツ」(長洲, 1998)という標語は….
- ② “interpretive cultural research”(Harris, 1998)の視点….

- (2) 著者が2名の場合、和文の場合には中黒(・)、英文の場合には“and”を用いてつなぐ。ただし、著者が3名以上の場合は、筆頭著者の姓の後に、和文の場合には「ほか」、英文の場合には“et al.”を用いる。複数の文献が連続する場合はセミコロン(;)でつなぐ。

[例]

- ③ 「……」(竹下・原宿, 1998) という結論は….
- ④ “……”(Park and Harris, 1998) という考え方には….
- ⑤ 「……」(井頭ほか, 1998) という結論は….
- ⑥ “……”(Harris et al. , 1998) の視点は….

⑦身体活動の減少は心疾患危険因子を増加させるという報告 (Paffenbarger et al. , 1978; Morris et al. , 1980)

(3) 本文中で参照した文献を明記する場合には、次のような形で著者名と発行年を記入する。同一著者の文献が複数ある場合には、括弧内の発行年をコンマ(,)でつなぐ。

同一著者の同一年に発行された複数の論文は発行年の後に a, b, c, …をつけて区別する。

[例]

- ⑧岸ほか(1998)によれば….
- ⑨宇田川(1996, 1998)による一連の研究では….
- ⑩渋谷・竹下(1987)によれば….
- ⑪ Park and Harris (1998)およびButt (1987)の見解は….
- ⑫ Bloom et al. (1951)によれば….
- ⑬ Harris (1995, 1997a, 1997b)の一連のフィールドワークでは….

(4) 翻訳書の著者を表記するときは、カタカナ表記とする。

[例]

- ⑭マイネル(1975)は…. このマイネルの概念….

(5) 翻訳書と原著の両方を引用したときには、翻訳書は上記(4)に従って記入する。原著は英文表記とする。

[例]

- ⑮マカルーン(1970)によれば….. しかしながら、マカルーン(1970)のクーベルタン論では…., 一方, MacAlloon (1971, 1972, 1980)の一連の著作では….

7 )注記：注は本文あるいは図表で説明するのが適切ではなく、しかも補足的に説明することが明らかに必要なときのみに用いる。その数は最小限にとどめる。注をつける場合は、本文のその箇所に注1), 注2)のように通し番号をつけ、本文と論文末の文献表との間に一括して番号順に記載する。注記の見出し語は「注」とする。

8 )特殊文字：

(1)ゴシック

ゴシックは見出し語のみに使用し、2重アンダーラインを用いて指定する。本文中の特定語句を強調するためのゴシック体の使用はさける。

(2) イタリック

次の場合にはアンダーラインを用いてイタリック体を指定することができる。

- ① 数式中の数
- ② 数値や量
- ③ 統計法に用いられる記号

#### ④ 動物・植物の学名

本文中の欧語を強調するためにイタリック体を使用することは、引用の場合などを除いて避ける。

#### (3) アンダーライン

文意を強調するためのアンダーラインは使用しない。

### 2. 図表の作成

図表は執筆要項6, 7, 8に従って作成する。図表は、その大きさが刷り上りと同様になるように作成する。作成する場合のフォントの大きさは、和文の場合は明朝体8 ポイント、英文の場合はセンチュリータイプ9 ポイントを目安とする。

投稿時には、1 ページ当たり1 点の図表をレイアウトするが、全ての図表を刷り上り紙面のサイズ(B5)に並べてレイアウト(図表にはそれぞれキャプションを入れたものの大きさとしてレイアウトする)したときに、合計で3 ページ以内とする。図表のファイルは、1 点5 MB 以下とし最大10 個までとする。

図題、表題、それらの見出しや説明文、注は英文抄録の理解を助けるために、できるだけ英文とすることが望ましいが、同一論文で和文と英文の併用はさける。なお、表注は表の下に一つ一つ改行し、注符号は上つきダガーで†, ††, †††などの順に用い、アスタリスク(\*, \*\*, \*\*\* )は統計学上の有意水準を示すときにのみ用いるものとする。

### 3. 文献表の作成

文献表の見出し語は「文献」とする。文献の記載は原則として著者名のアルファベット順とし、書誌データには通常、著者名・発行年・題目(書名)・誌名・出版社・ページなどの情報が含まれる。書式は下記の例にならう。

#### 1) 定期刊行物(いわゆる雑誌)の場合

定期刊行物の場合の書誌データの表記は、著者名(発行年)論文名・誌名・巻(号):ページ の順とする。

##### (1) 著者名および発行年

共著の場合、和文の場合には中黒(・)、英文の場合には“and”で続ける。ただし、英文で3人以上の場合にはコンマ(,)でつなぎ、最後の著者の前だけに“and”を入れる。発行年は著者名のすぐ後の( )内に記入し、論文名と区切る。著者名の前に番号は不要である。同一著者、同発行年の複数の論文を引用した場合は年号の後にa, b, c, …をつける。

##### [例]

- ① 原宿健夫・岸 康夫・渋谷太郎(1990)
- ② Hall, M. A., Cullen, D., and Slack, T. (1989)
- ③ Rageden, G. (1997a) Ultrasound Doppler estimate....
- ④ Rageden, G. (1997b) Muscle blood flow at the onset....

##### (2) 論文名

論文名の最後はピリオド(.)を打つ。英文では、題目の最初の文字だけを大文字にする。

##### (3) 誌名

和文誌の場合は略記せず、必ず誌名全体を記載する。英文誌の場合は、その雑誌に指定された略記法、または広く慣用的に用いられている略記法に従う。それ以外は省略しない。誌名の最後はコンマ(,)をつける。

#### (4) 卷号およびページ

卷数の後にコロン( :) をつけ論文の開始ページと終了ページを省略しないでハイフン( - )で結び、最後にピリオド(.) を打つ。同一巻が通しページとなっていない場合には、号数を( )で巻数の後に示す。

##### [例]

- ⑤ Sloniger, M. A., Cureton, K. J., Prior, B. M., and Evans, E. M. (1998) Anaerobic capacity and muscle activation during horizontal and uphill running. *J. Appl. Physiol.*, 83: 262-269.
- ⑥ Harris, J. C. (1989) Suited up and stripped down: Perspectives for sociocultural sport studies. *Sociol. Sport J.*, 6: 335-347.
- ⑦ Neumann, M. and Eason, D. (1990) Casino world: Bringing it all back home. *Cult. Stu.*, 4 (1): 45-60.
- ⑧ 関 修 (1990) ストレスを癒すフィジカル・エクササイズ. イマーゴ, 1 (6): 172-181.
- ⑨ 立石憲彦 (1990) 微小血管における赤血球からの酸素の放出速度の測定—装置の開発とラット腸間膜での測定—. 日本生理学雑誌, 52: 23-35.

#### 2) 単行本の場合

書き方の原則は定期刊行物の項に従う。

##### (1) 単行本全体の場合

著者名(発行年)書名(版数、ただし初版は省略)、発行所: 発行地、引用ページ(p. またはpp.)の形式とする。なお、引用箇所が限定できない場合には、ページは省略する。また、編集(監修)書の場合には、「編」、「監」、あるいは「編著」と表記する。英文では編集者が1人の場合は(Ed.), 複数の場合は(Eds.)をつける。

##### [例]

- ⑩ 保健体育科学研究会編 (1981) 保健体育教程(新訂版). 技術書院: 東京, pp. 17-22.
- ⑪ Butt, D. S. (1987) Psychology of sport: The behavior, motivation, personality, and performance of athletes (2nd ed.). Van Nostrand Reinhold: New York, pp. 12-13.
- ⑫ 山口昌男編 (1987) 越境スポーツ大コラム. TBS ブリタニカ: 東京.
- ⑬ Chu, D., Segrave, J. O., and Becker, B. J. (Eds.) (1985) Sport and higher education. Human Kinetics: Champaign.

##### (2) 単行本の一部の場合

論文(章)著者、論文(章)の題名の後に編集(監修)者名と「編」、「監修」、「編著」などをつける。英文の場合には、“In:”をつけたあと編集(監修)者名と(Ed.), または(Eds.)をつける。

##### [例]

- ⑭ Moony, J. (1983) The Cherokee ball play. In: Harris, J. C. and Park, R. J. (Eds.) Play, games and sports in cultural contexts. Human Kinetics: Champaign, pp. 259-282.
- ⑮ 新島龍美 (1990) 日常性の快楽. 市川浩ほか編 技術と遊び. 岩波書店: 東京, pp. 355-426.

##### (3) 翻訳書の場合

原著者の姓をカタカナ表記し、その後ろにコロン( :) をつけて訳者の姓名を記入する。共訳の場合は中黒で、訳者が3人以上の場合は「…ほか訳」と省略して筆頭訳者だけ記入する。英文の翻訳書の場合、

原著の書誌データは執筆者が必要と判断した場合に最後に< >内に付記する。

[例]

⑯ブルーム：菅野盾樹ほか訳(1988) アメリカン・マインドの終焉. みすず書房：東京, pp. 21-26. <  
Bloom, A. (1987) The closing of the American mind. Simon & Schuster: New York. >

### 3) インターネット・コンテンツの場合

書き方の原則は、定期刊行物の項に従う。

#### (1) オンラインジャーナルの場合

著者名(発行年)論文名、誌名、巻(号)：ページ。<サイト名> (アクセス日)の順とする。

[例]

⑰野村照夫(2005)ノーティカルチャートとは何か. 水泳水中運動科学, 8(1): 1-6. <[http://www.jstage.jst.go.jp/article/swex/8/1/1/\\_pdf/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/article/swex/8/1/1/_pdf/-char/ja/)> (2010.03.06)

#### (2) サイト内の文章の場合

発行年が不明の際は、n.d. (no date の略) を発行年に入れる。

[例]

⑯Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences(n.d.) International Journal of Sport and Health Science(IJSHS) Submission Guidelines. <[http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/journal/ijshs/guideline\\_e2.pdf](http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/journal/ijshs/guideline_e2.pdf)> (2010.03.06)

## 4. 英文要約について

1) 英文要約については、編集委員会の責任において一応の吟味をする。英文に明らかな誤りがある場合は、原意を損なわない範囲で調整することがある。

2) 英文要約の作成にあたっては、特に次の点に留意する。

- (1) 日本国内で知られている固有名詞でも、海外の読者に知られていないようなものについては、簡単な説明を加える。
- (2) 段落の初めは5字分あけ、句読点としてのコンマおよびピリオドの後は1文字あける。
- (3) 省略記号としてのピリオドの後はあけない。

## 5. 謝辞、付記など

公平な審査を期するために、謝辞および付記などは原稿「受理」後に書き加えることとし、投稿時の原稿には入れない。

## 6. 論文審査事項

論文の審査にあたり考慮することの中に、次の諸事項が含まれる。

### 1) 内容

原稿が未発表のことであること。ただし、

- (1) 学会大会等における口頭発表やその資料について、その内容を充実させたもの、あるいは各種研究助成金の交付を受けた研究を論文の形式にまとめたものは掲載の対象となる。

- (2) すでに発表された論文に用いられた資料であっても、それについて異なった観点から分析や考察が加えられている場合には掲載の対象となる。

## 2) 人権擁護・動物愛護についての配慮

被験者や被験動物の取り扱いについては、「京都体育学研究における研究者の倫理について」を参照し、人権擁護・動物愛護の立場から十分注意するとともに、実際に配慮した点を論文中に明記する必要がある。

## 3) 用語やスタイル

### (1) 文章表現について

①文章が簡明であり、すべての人が一義的に解釈できること。

②必要以上の省略がなされていないこと。

③一人称が乱用されていないこと。

④過大な修飾や客觀性に欠ける修飾がなされていないこと。

⑤根拠に基づかない断定的な表現がなされていないこと。

### (2) 題目(タイトル)が和英両文とも研究の内容を的確に表現していること。

### (3) 略語や新語を用いるときには、初出時に説明がなされていること。

## チェックリスト

「投稿規定」および「執筆要項」をよく読んだうえで、原稿を作成する。

以下はあくまでも形式的な事項についてのみの点検表である。

### 印字

- A4 判横書き、全角40字30行のページ設定とした。
- 投稿規定の範囲内の文字数に収まっている。
- 本文・文献、図・表・資料・写真を揃え、通しページをついた。
- 投稿ファイルでは、著者名や所属機関など投稿者の情報が削除してある。

### 記述

- 英文抄録および英文抄録の和訳を作成した。
- 図表の番号は本文中に出現する順序通りである。
- 本文中の引用と文献表のあいだで、綴りや発行年が合致している。
- 本文中の注と注釈の番号が一致している。
- 原稿にすべての図や表の挿入箇所が示されている。
- 句読点は「,」「.」を使用した。
- 文献表は著者名のアルファベット順、ついで刊行年順に並べた。
- 謝辞や付記は記述していない。

### 再提出

- 再提出期限内の投稿である。
- 受付番号を投稿論文原稿の最初に記入した。
- 審査員ごとに「修正対応表」を作成した。

## 京都滋賀体育学研究における研究者の倫理について

近年、体育・スポーツに対する社会的、教育的関心が急速に高まるとともに、その科学的研究に対する期待がますます増大している。他方、国内的にも国際的にも、生命の尊厳や人格の尊重、あるいは動物愛護の観点から、研究者の研究上の倫理にかかわる勧告や規定などが出されている。こうしたとき、人間を対象とすることの多いわれわれ体育学の研究者は、研究の遂行に当たって、目的の設定、計画の立案、方法の選択、被験者の選定、実験・調査の実施、結果の分析・処理、経過の公表などのすべての過程にわたって、人権の尊重と安全の確保を最優先し、かつ法に基づいて研究が行われることに充分の配慮を払うべきことを改めて確認しなければならない。また動物を対象とする研究においても、動物愛護の精神に基づいて、同様の倫理的配慮がなされなければならない。社会的、教育的要請に応えて、体育学を一層発展させるために、われわれ京都体育学会会員は、このことを個人として正しく認識し、会員相互に徹底を図るとともに、所属する機関や組織などにおいて、研究上の倫理的指針の作成や審査機関の設置など、この問題に対する具体的対応をそれぞれの状況に応じて進めることが緊急の課題であると考える。なお、研究の成果が応用される場である体育・スポーツの実践に対しても、研究者、あるいは指導者として、同様の倫理的配慮が十分になされていることを再認識する必要がある。

# 「京都滋賀体育学研究」投稿論文受領より、採否までの過程について

昭和63年2月1日提示  
平成22年3月1日改訂  
編集委員会

投稿論文は「京都滋賀体育学研究」編集委員会に関する申し合せ及び論文審査申し合せ（本誌第26巻に記載）に基づいて査読されます。

次に、論文の投稿を受けてから採否決定に至るまでの編集委員会が行なう手順について記しておきます。

1. 論文の投稿を受けた場合、編集委員会は受領書を投稿者宛にお送りします。
2. 編集委員会は各論文に対する審査員を決め、論文査読の依頼をします。
3. 審査の評定に従って編集委員会は投稿者に通知を行ないます。
4. 要訂正の通知をした場合も、60日以内に再度投稿されることを願っております。

概略、上記の通りです。編集委員会は銳意、迅速な発刊に向けて努力しておりますが、通常年1回の発刊予定ですから、論文受理時期によっては次巻に回る場合もございますのでご了承下さい。

会員諸兄姉におかれましては、どうぞ研究の成果をおまとめ頂き、早目に御準備御投稿下さいますようお願いします。

## 編 集 後 記

第30巻をお届けいたします。本号では資料1編が掲載されています。この論文は本学会の研究基金学術研究助成を受けた研究をまとめられたものです。中学・高校水泳部の傷害実態調査および傷害に対するフィジカルケアサポートの記録から傷害予防のプログラムを構築しようと試みられています。スポーツ現場における実践的な研究であり、安全性の観点から予防への取り組みは重要で、今後の発展を期待いたします。

一方、スポーツの安全面において、今後注意しなければならない問題があります。それは日本の気温です。既に気象庁はここ100年間で年平均気温が1.14℃上昇していると発表しています。先日は環境省が地球温暖化に有効な対策を取らないと、今世紀末には全国の年平均気温が現在に比べ4.4度上昇し、最高気温が30度を超える真夏日も全国平均で年間52.6日増えるとする予測を公表しました。すなわち、真夏日の期間は3カ月強になり、生態系、水、食糧、健康への影響は無視できなくなります。スポーツや身体活動場面ではなおさらです。暑熱耐性を持つ、暑さに負けない身体づくりを行うことは重要です。生活場面でも運動場面でも「適応計画」が必要となるでしょう。

最後に、本学会では総説、原著論文、資料、実践研究の種類を設け、投稿を募集しています。多くの学会員の皆様に投稿いただき、学会としてのアクティビティーを高めたいと考えています。是非、投稿をお願いいたします。お待ちしております。

(編集委員長 寄本 明)

### 訂正とお詫び

第29巻2号の表紙と目次の論文タイトルとお名前他に誤植がありましたこと、お詫び申し上げます。本号に訂正シールを同封しておりますので、お手数ですが添付いただきたくお願い申し上げます。

#### シール以外の訂正

5頁(誤)「川端愛義」から(正)「川畠愛義」に変更

35頁(誤)2007 平成20年3月7日 同志社大学 →(正)2008 平成21年3月7日 同志社大学

## 編 集 委 員

寄本 明(委員長) 野村 照夫 竹田 正樹 佃 文子 岡本 直輝  
真田 樹義(涉外) 芳田 哲也 中 比呂志

### Editor-in-Chief

Akira YORIMOTO, Kyoto Women's University, 35 Kitahiyoshi-cho, Imakumano, Higashiyama-ku, Kyoto 605-8501 Japan

### Editorial Board

Teruo NOMURA, Kyoto Institute of Technology

Masaki TAKEDA, Doshisha University

Fumiko TSUKUDA, Biwako Seikei Sport College

Naoki OKAMOTO, Ritsumeikan University

Kiyoshi SANADA, Ritsumeikan University

Tetsuya YOSHIDA, Kyoto Institute of Technology

Hiroshi NAKA, Kyoto University of Education

京都滋賀体育学研究 第30巻

平成26年 6月30日印刷

平成26年 7月 1日発行

編集発行者 岡本 直輝

印 刷 者 サンライズ出版株式会社

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

発 行 所 京都滋賀体育学会

〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 京都教育大学体育学科

中 比呂志

## **広告掲載企業**

(五十音順)

有限会社 アルコシステム

セノ一株式会社

株式会社 テック技販

特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会

富士医科産業株式会社

## **協賛企業**

(五十音順)

株式会社 す屋吉

# 生体ガス分析システム

## Respiratory Analysis System

### Breath by Breath モニターシステム [ARCO2000-METシリーズ]

～VO<sub>2</sub>max, ATから心拍出量 計測まで多岐にわたる応用測定に対応～



質量分析計ならではの高速応答性能と最大8種類のガスの同時連続分析機能を生かした、高精度で多機能なシステム構築が可能です。同時に5人を計測することが可能なマルチモニターシステムを開発致しました。

### ポータブルガスマニター [AR-10 O<sub>2</sub>郎]

Renewal!

Portable Gas Analyzer for Measurement of Metabolism

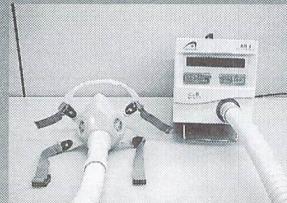
基礎代謝・エネルギー代謝・O<sub>2</sub>, CO<sub>2</sub>濃度分析

用途に応じて3モード計測

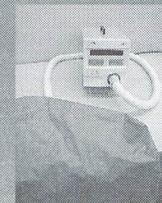
御好評を頂きましたAR-1の性能を更にアップして、リニューアル致しました。



[Portable Gas Monitor AR-10]



フェイスマスク



ダグラスバッグ



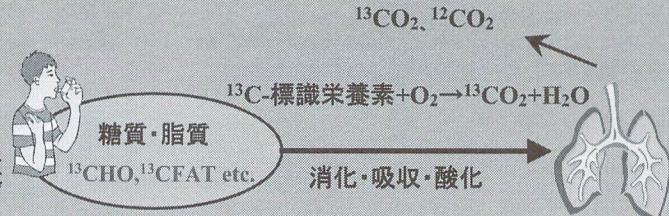
基礎代謝フード

### 13CO<sub>2</sub>/12CO<sub>2</sub> 安定同位体比測定

Measurement of <sup>13</sup>CO<sub>2</sub> / <sup>12</sup>CO<sub>2</sub> Stable Isotope

弊社の生体ガス分析用質量分析システムでは、各種<sup>13</sup>C標識化合物の投与により、その燃焼物である<sup>13</sup>CO<sub>2</sub>を計測することができます。

糖質や脂質などの投与栄養素の燃焼動態を把握することができる<sup>13</sup>CO<sub>2</sub>/<sup>12</sup>CO<sub>2</sub>分析と同時にVO<sub>2</sub>, VCO<sub>2</sub>, RQ等のエネルギー代謝因子と同時連続分析が可能です。



生体ガス分析のコーディネーター  
有限会社アルコシステム

TEL:04-7169-7050 FAX:04-7169-1470

千葉県柏市柏 4-11-17 イワダビル



ARCO SYSTEM

E-mail: mail@arcosystem.co.jp http://www.arcosystem.co.jp

# 日本トレーニング指導学会のご案内

日本トレーニング指導学会は、日本トレーニング指導者協会（JATI）の理念および目的実現のため、研究、実践の発表、知識の交換、会員相互及び国内外との諸団体との協力等により、トレーニング指導の発展に寄与するために設立されました。

## 第3回日本トレーニング指導学会大会のお知らせ

- 日 程 2014年11月22日（土）  
※翌23日は同会場にてJATI研修・交流会
- 会 場 東京都内近郊を予定
- 参加募集 2014年10月頃受付開始予定  
※発表しない方も参加いただけます。
- 発表募集 2014年9月頃開始予定  
※詳細は決まり次第ホームページにて発表致します。

### ●発表種別

科学的研究

基礎科学的な研究成果ではなく、それらを応用したスポーツの競技力向上や健康・体力の維持・増進のためのトレーニング指導法や体調の調整法についての新たな知見を報告するものとします。また、日本の環境や実情に適合したトレーニング指導の発展に貢献することを意識したものであることが望まれます。

### 実践報告

トレーニング指導の目的、対象、内容、方法、期間等を明確にし、かならず客観的なデータを含めるようしてください。

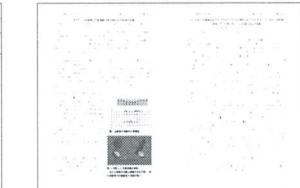
### 国際情報

国内では情報入手が困難な地域のトレーニング指導に関する科学的研究や実践報告の日本語による紹介とします。

※発表は成功事例だけでなく失敗事例についても歓迎いたします。

### ●発表方法

発表方法には「口頭発表」と「ポスター発表」の2種類があります。



第2回大会の抄録集



第2回大会口頭発表の様子



第2回大会ポスター発表の様子

## 学会誌「トレーニング指導 (Coaching Science in Training)」投稿募集

日本トレーニング指導学会では、トレーニング指導についての理論、方法の発展および実践論の普及を目的として、学会誌「トレーニング指導 (Coaching Science in Training)」を発行するにあたり、以下の4種類の原稿投稿を募集しています。

### 学会誌原稿の種類

#### 1) 原著研究論文

トレーニング指導に関する研究の結果をまとめたものであり、新規性、信頼性が高いもの。あるいは、多くの研究を独自の視点でまとめ、将来の研究分野の方向性を示したものであり、新規性、信頼性が高いもの。現場での実践を伴う評価に基づく高い有用性の提示は要求されないが、研究の位置づけが関連研究との比較検討により明確になっていること。

#### 2) 原著実践論文

トレーニング指導に関する実践の結果をまとめたもので、方法や条件が明確に記述され、汎用性の高い知見や方法が客観的な形式で導出されており、有用性、信頼性が高いもの。あるいは、トレーニング指導に関わるデータを包括的にまとめたもので、有用性、信頼性が高いもの。高い新規性は要求されないが、研究の位置づけが関連研究との比較検討により明確になっていること。

#### 3) 研究ノート

トレーニング指導に関する研究の結果をまとめたものであり、研究の目的、方法、結果、考察などが明確にされており、新規性および信頼性があるもの。原著研究論文のような研究の位置づけ、他の関連研究との比較検討などに関する記述は要求されない。

#### 4) 実践ノート

トレーニング指導に関する実践の結果をまとめたもので、トレーニング方法や対象者が明確に記述されており、有用性、信頼性があるもの。原著実践論文のような研究の位置づけ、他の関連研究との比較検討などに関する記述は要求されない。

詳しい投稿規定は、日本トレーニング指導学会HPをご参照ください。 <http://www.jati.jp/instit/index.html>

※学会誌は、2014年中に発行予定です。

お問い合わせ



特定非営利活動法人

日本トレーニング指導者協会

〒106-0041 東京都港区麻布台3-5-5-907

TEL:03-6277-7712 FAX:03-6277-7713

<http://www.jati.jp> E-mail:[info@jati.jp](mailto:info@jati.jp)

# 新たな計測への挑戦

3軸力覚センサー

Measure and analyze forces  
Open up new measurement possibilities

把持力を計測

HapLog

指圧を計測

フォースフレート

床反力を計測

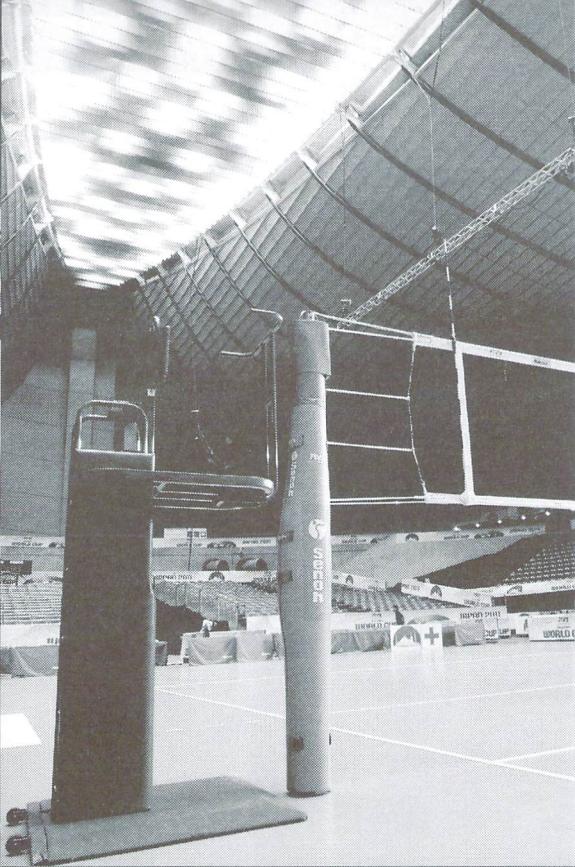
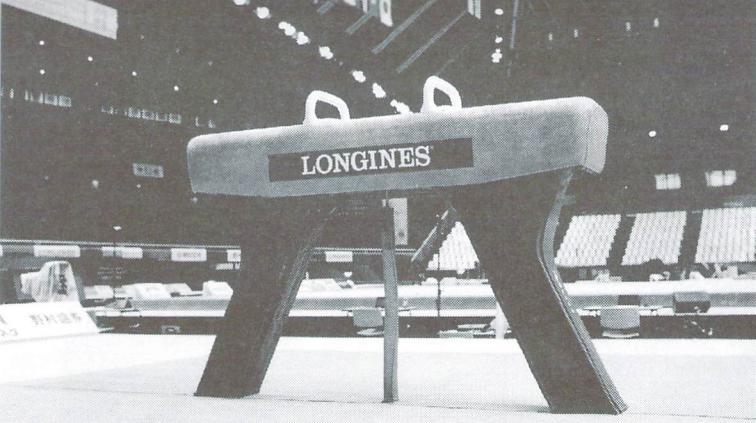
yawara

弾力を計測

M3D

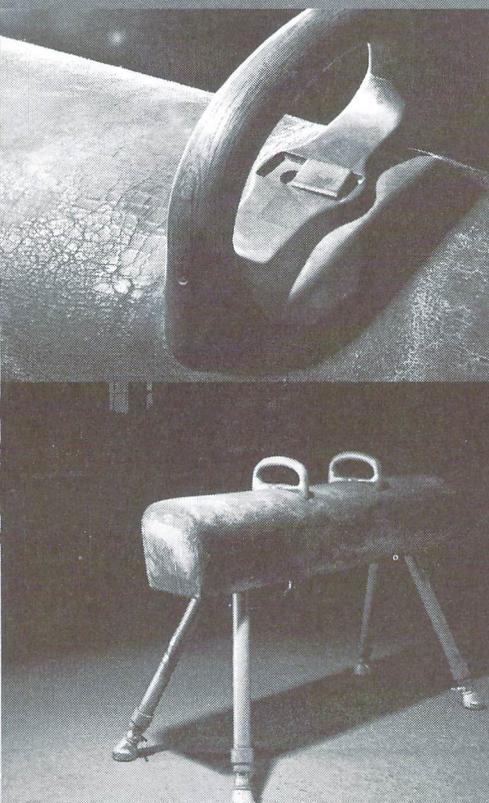
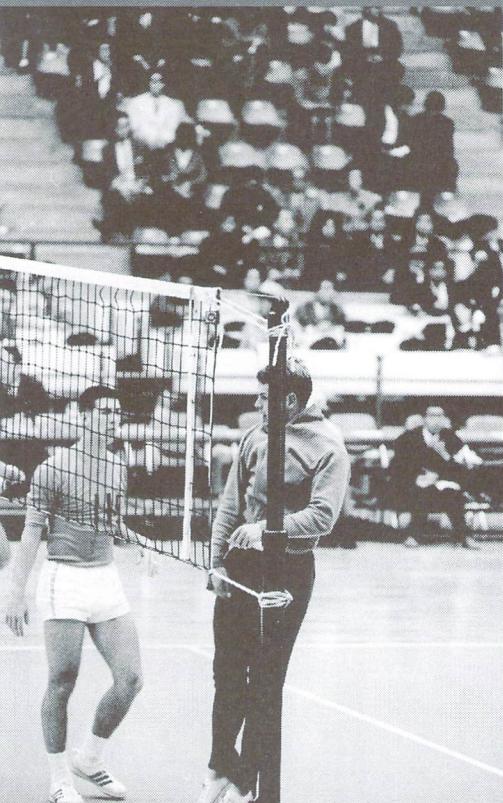
下半身の動き  
(歩行)を計測





スポーツと健康の未来を創る

*Innovation for Sports and Wellness.*



 **Senoh**

セノ一株式会社

〒555-0001 大阪市西淀川区佃2-1-34 TEL: 06-6473-9101 FAX: 06-6473-9100

[www.senoh.jp/](http://www.senoh.jp/)

# FUJI 人工環境制御室

低酸素  
仕様

新開発マルチ式空気調和システムによる  
高精度の温度・湿度制御



## 仕様・性能

O<sub>2</sub>濃度 低酸素 制御範囲  
20.9%~11.0% ※常用15%

N<sub>2</sub>流量 93.0% 300L/min (操作温度25°C)

温度 5~45°C ±0.5°C  
(20°C以下は換気制御無し)

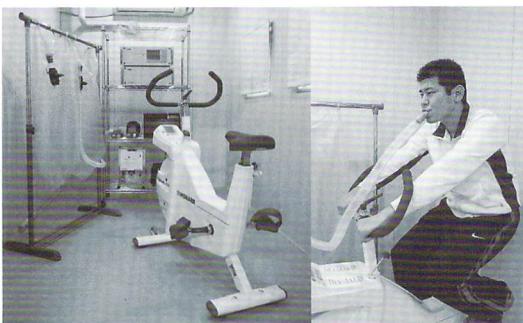
湿度 30~80% ±3% 常温制御

— 人工環境制御室は特注品となっております。詳細資料等は下記までお問い合わせください —

新開発

# FUJI ダグラスバッグ &フードシステム

特許出願中



驚異的な測定精度！

- 時代は体積流量から**質量流量**へ
- 手動から**オートサンプリング**へ
- 高精度Gas分析計**を採用

Model : FDU-200S

当社はスポーツ医科学の人工環境制御室 & エネルギー代謝測定装置(ヒューマンカロリーメーター)の専門メーカーです

**FIS 富士医科産業株式会社**

URL: <http://www.fujiika.com> E-mail: [info@fujiika.com](mailto:info@fujiika.com)

技術開発センター  
〒277-0026 千葉県柏市大塚町4-14  
Tel: 04-7160-2641 Fax: 04-7160-2644

# KYOTO AND SHIGA JOURNAL OF PHYSICAL EDUCATION, HEALTH AND SPORT SCIENCES

## MATERIALS

Takao MISE et al.:

The injury actual condition and physical care support in  
swimming team of a junior high school and a high school … 1

Edited by Kyoto and Shiga Society of Physical Education,  
Health and Sport Sciences